[illegible]ル者ニ限ル但警備隊兵卒ハ砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル[illegible]
歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第百十三條　歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百十四條　歸休兵在鄉中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ル
[illegible]

第百十五條　歸休兵在鄉中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキ
ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令
官ニ屆出ヘシ[illegible]

第百十六條　歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閲
點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第百十七條　歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ
免除スルコトナシ[illegible]

第百十八條　歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ尠カラ

サル日數間ニ歸鄉シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司合官ニ屆出ヘシ
退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滯在若クハ寄留セントスルトキハ前項
ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ル
ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出テ歸鄉シタルトキハ前項ノ屆出ヲ爲ス
ヘシ

前項ノ滯在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經
テ同地聯隊區司令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスル
トキ亦同シ

第百十九條　歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之
ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出テ歸鄉シタ
ルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司
令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百二十條　歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス
對馬警備隊區ニ在ラハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ第百十九條第一項ノ例ニ依ルヘシ

第百二十一條　歸休兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百二十二條　歸休兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ失踪者ノ歸鄉シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百二十三條　歸休兵重罪輕罪罰金ヲ除ク刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十四條　歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ召集ニ應シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若シクハ地方醫師ノ病況書其ノ他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百二十五條　第百十八條第一項及第二項第百十九條第一項第百二十條第二項第百二十一條乃至第百二十四條ノ屆出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第百二十六條　第百十八條第百十九條ノ通報ヲ遲緩シタル者及第百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以

上十日以下ノ拘留ニ處ス

第百二十七條　警備隊兵卒、砲兵輸卒、輜重輸卒ニシテ在營期限滿チ退營後尚現役中ニ在ル者ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス其ノ在鄉中ハ第百十四條乃至第百二十六條ノ規定ニ從フモノトス

第三款　豫備役及後備役

第百二十八條　豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百二十九條　再服役滿期者ク、ハ第百七條第百八條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス臺灣憲兵ニシテ通常ノ現役ヲ終リ豫備役ニ入ル者亦同シ

第百三十條　前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ五箇年間後備役ニ服セシム

七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第百三十一條　豫備役後備役兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第百三十二條　豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科、衛生部、軍吏部下士適任證書又ハ砲兵工科學校ヨリ經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第百三十三條　豫備役後備役兵卒傷痍若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在鄉中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百三十四條　豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス

第百三十五條　豫備役後備役兵卒ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地

ニ於テ簡閲點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後寄留後出願ノ者ハ指令書受領後三日以内ニ豫備役後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百三十六條　豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閲點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第百三十七條　現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ尠カラサル日數間ニ歸鄉シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滯在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出テ歸鄉シタルトキハ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ滯在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百三十八條　豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出テ歸鄉シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ擧アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到著後二十四時以内ニ市町

村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百三十九條　豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百四十條　豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百四十一條　豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ失踪者ノ歸鄕シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

スヘシ

第百四十二條　豫備役後備役兵卒重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百四十三條　第百三十五條第三項但書第百三十七條第一項及第二項第百三十八條第一項及第三項第百三十九條乃至第百四十二條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第百四十四條　第百三十七條第百三十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章　補充兵ノ服役

第百四十五條　第一補充兵第二補充兵ハ本籍所在郡管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官

ノ管轄ニ屬ス

第百四十六條　補充兵服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ第一補充兵ハ第一國民兵役ニ第二補充兵ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第百四十七條　補充兵傷痍若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘストモ思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百四十八條　第一補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習箇閧點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此ノ限ニアラス

第百四十九條　第一補充兵ニシテ他ノ聯隊區ニ寄留スル者ハ願ニ依リ其ノ地ニ於テ箇閧點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後出願ノ者ハ指令書受領後三日以內ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百五十條　第一補充兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ箇閧點呼ノ免除ヲ願ハントキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第百五十一條　補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者成年以上ノ男子ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出テ歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ屆出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ事アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到著後二十四時以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百五十二條　第一補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百五十三條　第一補充兵ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

第百五十四條　補充兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ失踪者ノ歸鄉シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十五條　補充兵重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ期シ除ク其ノ戶主本人戶主ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以內ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ屆出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百五十六條　第百四十九條第三項但書第百五十一條第一項及第三項第百五十二條乃至第百五十五條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第百五十七條　第百五十一條ノ通報人正當ノ事由アクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章　雜則

第百五十八條　一年志願兵、六週間現役兵及屯田各兵科下士兵卒ノ服役ニ關シテハ

別ニ定ムル所ニ依ル

第百五十九條　一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官、准士官及下士兵卒ノ豫備役後備役服役年期ハ二年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第百六十條　士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ニシテ各兵科各部ノ下士ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタル者ハ其ノ編入年ノ十二月一日ヨリ起算シ七箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終ルノ後五箇年間後備役ニ服セシメ後備役終ルノ後ハ第一國民兵役ニ服セシム

第百六十一條　本條例中特ニ下士兵卒雜卒職工ヲ包含スト雖モ同シク服役期限ヲ定メサルモノハ總テ徵兵令ノ規定ニ從フモノトス

第百六十二條　現役豫備役將校、同相當官一年志願兵ヨリ豫備役將校同相當官ニシテ服役延期中進級シタル者ノ服役期限ハ前官ノ現役定限年齡ニ依ル

第百六十三條　豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士、兵卒及第一補充兵ニシテ文官ニ任セラレ若シハ公吏トナリ除人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸其ノ他ノ

業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集若クハ後備軍召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第百六十四條　徵兵令第二十四條及本條例第二十六條第七十七條ノ除人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ本人ノ當該官廳ヨリ內閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケ將校、同相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第百六十五條　本條例ニ依リ町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出ス在鄉陸軍軍人ノ願屆書ハ尙當司郡長ヲ經由スルヲ要ス

附　則

第百六十六條　市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第百六十七條　陸軍豫備後備將校服役條例、陸軍豫備後備下士兵卒服役條例、陸軍現役下士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第三十七號ハ本條

例施行ノ日ヨリ廢止ス

第百六十八條　本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●陸軍省訓令甲第三號（明治二十九年六月十六日）

北海道廳　府縣

陸軍服役條例第六十條ニ依リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄等ノ死亡處刑若クハ失踪等ハ市町村長東京市京都市大阪市ニ在テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區戸長及之ニ準スヘキ者ノ證明書癈疾不具等ハ醫師ノ診斷書ヲ具シ其親族ヨリ本人ニ送付セシムヘシ

●布告第四十三號（明治十五年八月）

徵發令

徵發令別冊ノ通制定ス（別冊）

徵發令

第一條　徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條　徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條　左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一　陸軍卿海軍卿鎭臺司令官及ヒ鎭守府長官

二　陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三　海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條　徵發ス可キモノヽ種類ニ依リ徵發區會社モ之ニ準ス ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　第十二條第一項ハ　府縣

二　第十二條第二項及ヒ第三項ハ　郡區

三　第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ　町村
四　船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ　會社

第五條　徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條　徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條　徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條　各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條　徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條　徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條　供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條　徵發ス可キモノ左ノ如シ

一　米麥麩糠鹽味噌醬油漬物梅干及薪炭
二　乘馬駄馬挽馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具
三　人夫
四　宿舍庭園及ヒ倉庫
五　飲水石炭
六　船舶
七　鐵道瀛車
八　演習ニ要スル地所
九　演習ニ要スル材料器具

第十三條　戰時若ハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノヽ外徴發ス可キモノ左ノ如シ但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ニハ徴發スルコトヲ得ス

一　造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二　職工廠夫洗濯人ノ類

三　被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繃帶具

四　水車搗舂ノ類

五　病院

第十四條　第十三條第二項中徴發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　皇族所用ノ車馬

二　外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬

三　乘馬本分ヲ以テ職務ニ要スル馬匹ヽ

四　郵便用ノ車馬

五　公認セラレタル種牛種馬ヽ

第十五條　第十二條第四項中徴發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　公務ニ屬スル廳署

二　皇族ノ邸宅

三　外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四　鐵道電信郵便用ノ建造物

五　陸海軍將校並ニ同等官現在ノ家屋

六　博物館書籍館

七　病院盲啞院藥兒院

八　學校但臨戰合圖地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス

九　製造場内機械室

第十六條　第十二條第二項ニ掲クルモノヽ使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若ハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條　第十二條第二項ニ掲クルモノヽ其差出シ場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使

用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ時變ニ際シテ
ハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條　第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及營
業ニ必用ナル場所ヲ徴用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條　宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編成トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時摘
宜ニ之ヲ定ム

第二十條　第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所
ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條　宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許
サス廐圏倉庫亦同シ

第二十二條　宿舍廐圏ノ徴發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食餉ヲ供給ス可シ
但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食餉ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條　第十二條第六項ノ徴發ニ係リ其乘戰人馬ノ食餉ヲ要スルモノハ併セテ
供給セシム

第二十四條　第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切
トシテ之ヲ徴用スルコトアル可シ

第二十五條　第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徴
用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徴用スルコトヲ得

第二十六條　第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徴用スルハ戰
時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ艀船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十二條第七項ニ属スル鎭軍其属具鐵道建築所用ノ材料器及ヒ操業者
ヲ各個ニ分別シテ徴用スルハ戰時若クハ時變ノ際ニ限ル

第二十八條　第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徴用スルヲ例
トス但合圍地境内ニ在テハ塗ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條　徴發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠
償ス

第三十條　徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條　賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若ク

ハ事變ノ際ニ紛擾ノ爲又ハ延滯シテ二ケ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子

ヲ付ス

第三十二條　賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ

店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條　徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ付キ供給

者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若シハ戶長ニ屆出可シ

其屆出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持

主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無效トス

一　西洋形船舶　七日間

二　地所　評價委員ノ告示スル時日間

三　其他ノ物件　一日間

第三十四條　第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均

價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件

ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シ

テ賠償ス

第三十六條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ

六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給

シ宿泊食飼ヲ官給ス但シ此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條　第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使

用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供

給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條　第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十

六條ヲ適用ス

第三十九條　第十二條第四項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條　第十二條第五項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條　第十二條第六項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外左ノ區別ニ從フ

一　出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二　定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿タサルモノ又ハ定路ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ

三　出船及ヒ航路ノ定メナシテ定賃ヲ以テ營業トセサルモノ

等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條　第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條　第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ

第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノヽ賠償金額ハ第四十一條第

三項ニ准ス

第四十四條　第十二條第七項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外平常

ノ定賃トス

第四十五條　第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ

其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價

委員ノ評定ニ任ス

第四十六條　第十三條第八項ノ徴發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變

更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條　第十三條第九項ノ徴發ニ係ル者ハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ

賠償ス

第四十八條　第十三條第二項第三項及ヒ第四項ノ徴發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價

若シクハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定

ニ任ス

第四十九條　第十三條第二項ノ徴發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條　第十二條第五項ノ徴發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條　徴發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ敎唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條　徴發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サヽルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其解意ニ出ヅルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　徴發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徴發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徴發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

●布達第二十六號ニ（明治十五年十二月）

徴發事務條例

徴發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

（別冊）

徴發事務條例

第一條　徴發事務條例ハ徴發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條　陸軍若ハ海軍官憲ハ徴發區ノ大小遠近及ヒ供給方ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徴發書ヲ出ス可シ

第三條　徴發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徴發スルコトヲ得

第四條　徴發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徴發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條　徴發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣官長ハ其獨立中ニ限リ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタル時ハ徴發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條　徴發令第三條第三項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長士官以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徴發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス

第七條　徴發ニ應シタル人員ハ勉メテ輝丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條　徴發物件其徴發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戸長及ヒ證人二人其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條　徴發ヲ課セラレタルモノハ徴發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徴發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條　徴發書ハ徴發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徴發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徴發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徴發書ヲ用ヒス本人ニ受領證

票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徴發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

徴發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徴發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得

第十一條　徴發ノ命令ヲ受ケタル官憲ハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條　徴發書ヲ受ケタル徴發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徴發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徴發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ

郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條　府知事縣令徴發令第十二條第一項ニ係ル徴發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ員數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條　府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徴發令第八條ニ從ヒ徴發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條　徴發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徴發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖トモ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條　徴發令第十一條ニ揭クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條　受領證票ハ徴發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徴用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徴用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ揭クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條　徵發令第十二條第二項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲ケルモノ　艀船及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアルヘシ

第十九條　徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條　徵發令第十二條第一項ニ掲ケルモノヽ徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尚ホ完全セサルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陷ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其十日間ニ其府縣內ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二　他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三　秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條　郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ

鐵道局長及鐵道會社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新ニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十二條

第二十三條

第二十四條　北海道廳長官府縣知事ハ三ケ年毎ニ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ毎年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十五條　北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三第五號一二ノ雛形ニ依リ西

十九年閣令第十一號ヲ以テ削除

同前

洋形船舶器械製造修覆場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表船舶
瀛船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ
但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル瀛船アルトキハ第五號三ノ雛形ニ
依リ瀛船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ
第二十六條　徴發令第十二條第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ
必用ナル屬具ヲ併セテ供給スヘキモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコ
トヲ得ス
第二十七條　徴發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供ス
ル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徴用スルヿヲ得ス
第二十八條　徴發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指
シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸
坐敷貸席等ヲ包含ス
第二十九條　宿舍ノ廣狹ハ徴發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戸長

ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一	廨署	陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
二	將官其參謀部ト共ニ	一家屋
三	上長官又ハ同等軍屬一名	一室
四	士官又ハ同等軍屬三名	一室
五	下士又ハ同等軍屬一名	一疊半乃至二疊
六	卒又ハ同等軍屬一名	一疊乃至一疊半
七	徴發ニ應シタル人員三名	二疊

第三十條　戸長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ムヘシ
第三十一條　徴發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許
サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戸長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ
請求スルコトヲ得但之カ爲メ徴發令第廿二條ニ掲クル日限ヲ更新スル者ニアラス
第三十二條　徴發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食饌ノ定量大率ヲ左ノ如シ

ト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以内ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人　精米每食二合　朝夕飯一汁一菜漬物　午飯一菜漬物

二馬　駐軍中　朝大麥二升秣芻五百目喰藁百五十目　晝秣芻五百目喰藁百五十目　夕大麥二升秣芻五百目喰藁二百目

演習及ヒ行軍中　朝大麥二升秣芻五百目　晝大麥一升　夕大麥二升秣芻一貫目喰藁五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣芻ニ代用スルトキ　朝小麥一升喰藁一貫目　晝小麥五合　夕小麥一升五合喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣芻ニ代用スルトキ　朝搗麥又ハ裸麥一升喰藁一貫目　晝搗麥又ハ裸麥一升　夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條　宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其他ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭共ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條　寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條　宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條　町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條　會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條　食饌ノ定價ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食饌ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條　徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區內ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條　徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス〈キモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ

第四十一條　郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條　賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條　府知事縣令郡區長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ揭クルモノハ其計算書ニ別項ヲ設ケ之ヲ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條　徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條　徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキハ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠

償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條　徴發物件ノ毀損シタル陸海軍官憲ニ屆出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ屆出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戸長ニ屆出可キモノトス

第四十七條　毀損ノ屆出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戸長若シ毀損ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢查シ其調查書ヲ作リ供給者ノ請求金額アルモノハ之ヲ添フ其關係ノ陸海軍官憲ヘ差出ス可シ但調查書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條　徴發令第三十三條ニ揭ク期日ヲ超エタル屆出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條　徴發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ每年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條　徴發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徴發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條　徴發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ揭ク平常ノ賃價屋賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受ケル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徴發令中ニ揭ケル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戸長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條　徴發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食饌ノ定量ヲ變換若クハ減歩スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條　徴發令第四十二條中航船賃費中ハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航船中現

ニ消耗シタルモノヽ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條　徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條　評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ス場所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民ヲ用ユルモ妨ケナシ二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條　評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ選擧ス可キモノトス

其選擧セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條　其選擧セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條　評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通達ス可シ

第五十九條　評價ノ方法ハ評價ス可キモノヽ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ揭ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ屆出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ査覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ揭クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一　評價ノ事項及ヒ事由

二　委員ノ氏名

三　地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタル歟又ハ實測シタル歟金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルト枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條　評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ

府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作リ陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄第一號ノ一

徴發書

一宿舍　廢署用　將官幾人　上長官幾人
士官幾人　下士幾人　兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徴用

一庭園　右ノ通　幾匹分
一倉庫　右ノ通　幾坪
一艀船　右ノ通　幾艘
一何々　右ノ通

前書ノ通徴用候條某町（村）ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年　月　日

何々長

某府（縣）某郡（區）
某町（村）戶長役場宛

官　姓　名　印

備考　徴發書ノ料紙ハ美濃判紙タル可シ

附錄第一號ノ二

徴發書

一人夫　幾人
右內
幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用
幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一駄馬　幾匹馬士共
右內
幾匹
幾匹

一何々
右內
何
何

一何々
右內
何

前書ノ通徴用候條其部(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年　月　日

某府(縣)
某部(區)役所宛

何々長
官　姓　名　印

附錄第一號ノ三甲

徴發書

一瀛船　船名
一西洋形風帆船　船名
右某月某日ヨリ借切徴用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年　月　日

何々長
官　姓　名　印

附錄第一號ノ三乙

徴發書

一　幾名
一將校並同等官　幾名

某會社某地店長宛

一下士卒並同等　幾名
一馬　幾匹
一車　幾輛
一荷物略計　幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ（又ハ其社所有ノ何號船ヲ徵用シ某月某日某港出帆）某港ニ運送爲致候條運滯ナク供給可致事

年　月　日

何々長
官　姓　名　印

某會社某地店長宛

附錄第一號ノ四

徵發書

一上等　幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
一中等　幾名内、、、
一下等　幾名内、、、
一馬　幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
一車　幾輛内幾輛ハ、、、

一荷物略計　幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ通常（特別）汽車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地ヘ運送候條運滯ナク供給可致事

年　月　日

何々長
官　姓　名　印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄第一號ノ五

徵發書

一玄米　幾百石
一精米　幾拾石
一薪　幾貫目
一何々　、、
一何々　、、

右徵用候條某月某日限リ供給可有之事

年　月　日

何々長
官　姓　名　印

某府(縣)宛

附錄第一號ノ六

徴發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍

右某月某日演習ノ爲メ徴用候事

年　月　日

某町(村)戸長役場宛

何々長
官　姓　名　印

附錄第二號ノ一

受領證票

一宿舍　廨署用　將官幾人　上長官幾人
　　士官幾人　下士幾人　兵卒　幾人
右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徴用

一廐圈　幾匹分

右ノ通

一倉庫　幾坪

右ノ通

一艀船　幾艘

右ノ通

一何々　幾

右ノ通

前書ノ通徴用候也

年　月　日

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

何々長
官　姓　名　印

備考　受領證票ハ總テ存留證票ノ式タル可シ

附錄第二號ノ二

受領證票

一人夫　幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出ノ幾日間徴用
幾匹馬士共

一駄馬　幾匹
右内　幾匹
一何々　何
右内　何
一何々　何
右内　何
何
前書ノ通徴用候也

年　月　日

某府（縣）
某郡（區）役所宛

何々長
官　姓　名　印

附錄第二號ノ三甲

受領證票

一漕船　船名
一西洋形風帆船　船名
右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徴用
前書ノ通徴用候也

年　月　日

某會社某地店長宛

何々長
官　姓　名　印

附錄第二號ノ三乙

受領證票

一將校並同等官　幾名
一下士卒並同等　幾名
一馬　幾匹
一車　幾輛
一荷物略計　幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徵用

前書ノ通徵用候也

年　月　日

某會社某地店長宛

何々長

官　姓　名　印

附錄第二號ノ四

受領證票

一上等　幾名內幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等　幾名內、、、

一下等　幾名內、、、

一馬　幾匹內幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車　幾輛內幾輛ハ、、、

一荷物略計　幾噸內幾噸ハ、、、

右ハ某月某日時通常(特別)滊車徵用

前書之通徵用候也

年　月　日

何々長

官　姓　名　印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄第二號ノ五

受領證票

一玄米　幾百石

一精米　幾拾石

一薪　幾貫目

一何々　、、

一何々　、、

前書ノ通徵用候也

年　月　日

某府(縣)宛

何々長

官　姓　名　印

附錄第三號ノ一改正

何府縣

何國何郡(市)東西何里何丁
南北何里何丁

明治何年十二月三十一日調

郡(市)役所　何郡(市)何町(村)

| 甲 | | |

一聯隊及職工ノ區畫ハ三府ノ市部ハ一區毎ニ其他ノ市部郡部ニ在テハ一市一郡毎ニ設クヘシ

一乙部上欄第一(何市)第二(何町)第三(何村)ノ三行中第一行ハ全市第二第三行ハ町村制實施ノ際他町村ト合併セサリシモノ又ハ合併シタルモ新區域内ノ人家連接セルモノヲ記載スヘシ

一同第四行ハ町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其區域内ノ人家各部落ニ散在スルモノヽ記載方ヲ示ス即チ上段ニ新町村名ヲ記入シ下段ニ大字(舊町村名)ヲ記載スヘシ

一同第五行組合町村中第一行ハ乙部第二第三行ノ例ノ如ク家屋連接戸數人口最多數ノ部落ヲ記載シ第二行ハ第四行下段第一第二行ノ例ニ倣ヒ記載スルモノトス

一幅員ハ市區町村又ハ一部落地ノ兩端末ニ在ル家屋ノ隔離ヲ概子東西、南北ノ方位ニ從テ記スヘシ

一家屋畫内戸數ハ現在軒數ヲ掲ケ宿舍用坪數ハ各家族起臥營業ニ必用ノ部分ヲ除キ計算スヘシ

一人口ハ現ニ居住ノ人員ノミヲ掲クヘシ

一人夫ハ年齡凡ソ十七歳以上農夫漁夫輓夫日雇人足等總テ力役ニ從事スルモノヲ記載スヘシ

一倉庫及廐ハ貸庫貸廐ニ限ラス總テ現在數ヲ掲クヘシ

一廐畫内繋留馬數トハ該廐内ニ繋留シ得ヘキ馬數ヲ記載スヘシ

一寺院畫内宿舍用坪數ハ内陣及其家族ノ起臥ニ必用ノ部分ヲ除キ計算スヘシ

一學校並病院ハ官立私立ノ別ナク總テ掲クヘシ及病院畫内患者數ハ其病室ニ容レ得ヘキ患者人員ヲ記載スヘシ

一製造所坪數ハ器械室ヲ除ク

一水車場ハ精米ニ使用スルモノヲ掲クヘシ若シ蒸氣器械ノ精米所アレハ之ヲ分記シテ肩ニ△ノ符號ヲ付スヘシ

一表中△ハ町村役場◉ハ郵便局◎ハ郵便爲替局※ハ電信局⏚ハ電信爲替局□ハ鐵道驛站…ハ中央金庫本金庫支金庫○ハ國道◎ハ縣道⑫ハ里道所在地ヲ示ス符號トス

一市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ一區一郡各別ニ一表ニ調製スヘシ其區部ハ本表市部ノ例ニ擧シ郡部ハ每町村名ヲ掲クヘシ但町村戸長役場所在地ハ△ノ符號ヲ付シ聯合町村ハ他ノ町村ト混合セサル樣縱線ヲ大ニシテ區別ヲ明ニスヘシ

附錄第三號ノ二改正

明治何年十二月三十一日調

何府縣

何國何郡(市)東西何里何町
南北何里何町

何郡(市)役所　何郡(市)何町(村)

市町村名	牛				馬								車				人	牛	馬車並馬飼員	駄馬並馬車曳共
	乘牛		牡牝		乘馬		牡牝		駿馬		牡牝		荷馬車		荷馬車		力車	荷牛車		
	合格	不合格	牡	牝	合格	不合格	牡	牝	合格	不合格	牡	牝	一頭曳	二頭曳	一頭曳	二頭曳	車	車		

甲				乙												合	
何區	何區	計	何市	何町	何村	何町（村）				何町（村）				組	計	計	何町（村）
						大字何々	大字何々	大字何々	計	大字何々	大字何々	大字何々	計	何町（村）			大字何々

一馬車ハ二輪又ハ四輪ノ人乘馬車ニシテ器具稍々完備シ數日ノ運轉ニ耐ユルモノヲ記入スヘシ但三頭曳以上ノ車輛ハ二頭曳ノ欄ニ合記スヘシ

一荷馬車西洋荷馬車及大八車製ノ如キモノニシテ器具稍々完備シ馬ニ駕シ得ルモノヲ合記スヘシ

一馬車曳具及馱鞍屬具等ハ其材料完備シ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ記載スヘシ

一車輛ハ國稅ヲ徵收(下半期ノ國稅ヲ納メタル數)シタル數ヲ記載スヘシ

一馬匹ハ乘馬飼養令ニ依リ飼養スルモノヲ除却スヘシ

一市制町村制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ第三號ノ一表末項ノ說明ニ據ル

附錄第三號ノ三改正

物產收穫高

何府縣　明治何年調

郡市	町村	玄米	大麥	小麥	裸麥	鹽	味噌	醬油	漬物	梅干	秣蒭	藁
	何區	一〇石	五石	一〇〇石	八〇石	二五〇石	八〇〇貫	石	三一七樽	五八三樽	貫	貫
	何區	三五	一〇	七	六〇	三九		二三八				
何市	何區											

	何區											
	計											
何市												
何郡	何町											
	何町											
何郡	何村											
	何村											
	計											
何郡	何町											
	何町											
	何村											
	何村											

| | | |

瀝機製造最大極			何馬力
造船機械工長	道廳何(府)縣何國何郡(區)何町(村)何番地何某		
造船職工	何人	內兼端舟職	何人
端舟職工	何人	內兼造船職	何人
船具職工	何人	組立職工	何人
填隙職工	何人	鍊鐵燒鐵職工	何人
製帆職工	何人	整飾職工	何人
製圖職工	何人	製管製罐職工	何人
模型職工	何人	鉋鋸器械職工	何人

前二箇年間製造シタル船舶ノ馬力及噸數

瀝船何噸　何馬力
帆船何噸

一各職工ノ數ハ場內最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ
一造船職工ニシテ端舟職工ヲ兼ル者アレハ造船職何人內兼端舟職何人ト記スヘシ他ノ兼職モ之ニ準ス

日本式西洋式鑄造場表

持主	何國何郡(區)何町(村)何番地華(士)族(平民)何某	道廳何(府)縣	
所在地名	何國何郡(區)何町(村)何番地		
熔鐵爐數	何箇		
熔鐵量	何貫目		
熔鐵機械種類	瀝(人力)		
平常製造品種	何品		
職工ノ數	何人		

一職工ノ數ハ場內最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ
一熔鐵量ハ爐數ノ多少ニ拘ハラス一回ニ解シ熔得ル量ヲ揭クヘシ
一本表ニハ一回ノ熔鐵量百貫目以下ノ鑄造場ハ之ヲ揭クルヲ要セス

附錄第四號ノ三

旋盤（レース）三臺以上裝置鐵工場表

道廳何（府）縣

持主	何國何郡（區）何町（村）何番地華（士）族（平民）何某
所在地名	何國何郡（區）何町（村）何番地
旋盤長サ	何「ヒート」
旋盤眞隔（ラジス）	何「インチ」
器械種類	瀛（水車）（風車）（人力）
馬力	何馬力
職工ノ數	何人

一職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ

一旋盤（轆轤ノ如キモノ）眞隔トハ旋軸ト盤面ノ間隔即チ其處ニ廻轉スル物體ノ半徑ナリ

附錄第五號ノ一改正

登簿噸數百噸未滿瀛船表

道廳何（府）縣

免狀番號	船名	用方	運航港津	所屬會社及船主
一〇二五	何丸	郵船	何港ヨリ何港ヲ經テ何港迄	何國何郡何町（村）何社
一二五六	何丸	旅客船	何港ヨリ何港迄	何國何郡何町（村）何某
／	何丸	港内使用船		何國何郡何町（村）何社

附錄第五號ノ二改正

登簿噸數百噸以上瀛船表

道廳何（府）縣

船名	何丸	所屬會社或ハ船主	何國何郡何町（村）何番地何々社或ハ何某
免狀番號	何	運航港津	何港ヨリ何々ヲ經テ何港迄或ハ何港何港間
定繫港	何港或ハ何	用方	郵船旅客貨物或ハ挽船
船内構造變更ノ箇所	何甲板ニ上中等客室何箇所ヲ設ク或ハ之ヲ除キ艙庫又ハ何々ニ改造ス	一晝夜ノ炭費	何斤
一晝夜ノ油費	何升	合一晝夜ノ脂費	何斤
全速力	何哩	常速力	何哩

附錄第五號ノ三改正

漁船表

船名	何丸	所屬會社或ハ船主	何國何郡何町(村)何番地　何々社或ハ何某
免狀番號	何番	定航地方事務扱所	何港　何郡何町(村)何番地　何々社或ハ何某
登簿噸數	何噸、二五	買入代價	何圓
製造年月	何年何月	航路限	外國、內國、近海或ハ平水航船
檢查年月	何年何月	檢查證書有効期限	何箇月
用方	郵船旅客貨物或ハ挽船	運航港津	何港ヨリ何々ヲ經テ何港迄或ハ何港何港間
定繫港	何港或ハ何灣	石炭貯量	何斤
一晝夜ノ炭費	何斤	一晝夜ノ油費	何升何合
一晝夜ノ脂費	何斤	蒸溜水器械一晝夜蒸溜量	何升何合

船長及運轉手定員	何人	機關手定員	何人
事務係定員	何人	水夫定員	何人
火夫定員	何人	自餘乘組定員	何人

附錄第六號

賠償金計算書

一宿泊代第何號證票　何拾何圓
一廐圍代同上　何拾圓
一駄馬何匹同上　何圓
一人夫何人第何號證票ノ內　何圓
一六里外人夫何人同上　何圓
一荷積大七車何輛第何號證票　三日
一同大八車何輛同上　何圓
一同中車何輛同小車何輛第何號證票ノ內　何圓
右七廉合計金何百何拾何圓賠償金トシテ御渡相成度候也　何圓
　評價

年　月　日

府知事(縣令)郡區長(戶長)

何地何會計官
御中

姓名　印
停車場長（船舶會社店長）

附錄第七號

何郡（區）何市場
何郡（區）何市場　平均物價表　何府（縣）
何郡（區）何市場

種類 ＼ 平均價	何年	何年	何年	自何年至何年三箇年
	圓	圓	圓	圓
玄米　壹石				
精米　壹石				
塩　壹石				
味噌　壹貫目				
醬油　壹石				
漬物四斗樽入壹樽				
梅干四斗樽入壹樽				
大麥　壹石				
小麥　壹石				
裸麥　壹石				
秣藁　壹貫目				
松薪　壹貫目				
堅薪　壹貫目				
炭　壹貫目				
石炭　壹噸				
藁　壹貫目				
備考	○各種類共其品質數等アルヲ以テ各上中下三等ノ價ヲ平均ス ○漬物ハ澤庵漬トス			

●陸軍省訓令甲第十五號　（明治二十三年九月）

徴發事務條例中徴發物件取調送附方

今般勅令第百九十六號ヲ以テ徴發事務條例第二十四條改正ニ依リ三年毎ニ徴發物件表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ陸軍省ニ送附スルハ本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トシ自後之ニ準スル儀ト心得ヘシ

但條例第二十一條ニ依リ郡區長ニ於テ製表ノ儀モ毎年調製ヲ要セス本文同樣ノ儀ト心得ヘシ

道廳　府縣

●達甲第十三號　（明治十四年四月廿五日）

陸軍武官結婚條例

第一條　凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ンス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ納メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其四ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ順ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘ヲニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條　凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒徴兵令ニ依リ徴集シ及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得

第四條　結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第二號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條　將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿奥書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長（課長）豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官奥書スヘシ

第六條　其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證

スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地區長ノ調印シタル身元証書ヲ添フヘシ

第七條　現役士官竝ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシムル故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉竝同等官	四百六拾圓
中小尉竝同等官	六百圓
准士官	八拾圓
下士	八拾圓

第八條　第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其ノ金額ハ下士ニ同シ

第九條　第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシムヘシ

第十條　結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條　家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項　上長官ニ昇進セシ時

第二項　恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時

第三項　本人死歿スルカ又ハ現役ヲ離ルヽ時

第四項　其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項　天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條　結婚願書式竝ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村族籍職業

何某何女（姉）（妹）

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書（家計保護金証金）相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日　　某

太政大臣（陸軍卿）（所管長官）宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

年號月日　　某

陸軍卿（所管長官）（何隊長）（何課長）

官姓名印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村

族籍職業　　何某何女（姉）（妹）

某

年號月日生

年號月何年何ケ月

使府縣國郡區町村戸長アラサル地ハ區長

年號月日　　姓名印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日　　官姓名印

●勅令第二百十二號（明治二十九年五月十五日）

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

年號月日　　使府縣國郡區町村戸長アラサル地ハ區長

姓名印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日　　官姓名印

●勅令第二百十二號（明治二十九年五月十五日）

陸軍士官學校條例

第一條　陸軍士官學校ハ生徒ニ初級士官タルニ必要ナル敎育ヲ爲ス所トス

第二條　生徒ハ陸軍各兵科現役士官候補生ヲ以テ之ニ充テ各隊ヨリ分遣セシム

第三條　本校ニ生徒隊一隊ヲ置ク

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	少將大佐
副官	大中尉
敎官	中少佐大尉
敎授	
馬術敎官	大中尉
生徒隊長	中少佐
生徒隊副官	中尉
生徒隊中隊長	大尉
生徒隊附	中尉
軍醫	
獸醫	
軍吏	
准士官、下士、陸軍屬及陸軍助敎	

第五條　校長ハ監軍ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒敎育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　敎官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官ノ敎官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條　敎授ハ外國語學科ノ授業ヲ分擔ス

第九條　馬術敎官ハ馬術ノ訓練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調敎ヲ掌ル

第十條　生徒隊長ハ生徒隊一般ノ事ヲ管理シ生徒敎育ノ責ニ任ス

第十一條　生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第十二條　生徒隊中隊長ハ其中隊生徒ノ訓育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且

軍隊內務、服裝、行狀ヲ監視ス

第十三條　生徒隊附士官ハ所屬中隊ニ在ラ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ訓育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十四條　生徒修學期ハ概ヲ十六箇月トス

第十五條　生徒ノ教育ハ之ヲ分ラ教授及訓育トシ其課程ハ校長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得ラ之ヲ定ム

第十六條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十七條　生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十八條　生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十九條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一　學術ノ豫習全カラスシテ實際勤務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四　長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五　卒業試驗ニ落第セシ者

第二十條　生徒中疾病及ヒ其他ノ事故ニ依リ學期內ニ所定ノ學術ヲ修ムル得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條　校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十二條　滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ前條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十三條　每年生徒ニ凡三週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條　教官及中隊長生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

第二十五條　生徒演習上ノ必要ニ依リ師團各隊ヲ使用スルコトヲ得

廿七年二月勅令第七號參看

●勅令第九十二號　（明治二十二年七月九日）

陸軍各兵科現役士官補充條例

第一條　陸軍歩、騎、砲、工兵科現役士官ノ補充ハ陸軍出身志願ニシテ才能及學力ヲ有スル者ヲ選シテ士官候補生ト爲シ各自ノ希望ニ依リ各兵科聯(大)隊ニ配賦シ概ヲ一箇年間必要ノ教育ヲ與ヘタル後一年七箇月士官學校ニ分遣シ卒業ノ上原隊ニ復歸セシメ六箇月以上士官ノ勤務ヲ習得セシメ將校會議ニ於テ可決シタル者ヲ以テス但屯田各兵科士官ノ補充ハ他同兵科ノ士官ヲ以テシ輜重兵科士官ノ補充ハ他兵科士官ヨリ轉科セシメ憲兵科士官ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條　士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

其一　幼年學校生徒ニシテ卒業試驗ニ及第セシ者

其二　一年志願兵又ハ其他ノ者年齢十八年以上二十三年以下ニシテ尋常中學卒業證書ヲ所持スル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

第三條　每年採用スヘキ士官候補生ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第四條　士官候補生召募ノ試驗格例ハ每年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第五條　幼年學校生徒ヲ士官候補生ト爲スニハ校長該生徒ノ人名書ニ考科表及卒業試驗ノ成績ヲ添ヘ監軍ニ進達ス

第六條　一年志願兵ニシテ士官候補生タランコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ尋常中學卒業證書ヲ所持スル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ順序ヲ經テ都督師團長ニ差出シ都督師團長ハ各志願者ノ本籍ノ地方長官寄留ノ者ハ其寄留ノ地方長官ニ照會シ身分、財產、敎育、性質、品行等ニ係ル詳細ノ證明証ヲ得之ヲ願書ニ添ヘ監軍ニ進達ス

第七條　華士族平民ニシテ士官候補生タランコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ尋常中學卒業證書ヲ所持スル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ本籍ノ地方長官寄留ノ者ハ其地ノ地方長官ニ差出シ地方長官ハ各志願者ノ身分、財產、敎育、性質、品行等詳細之ヲ取調ヘ其證明書ヲ作リ之ヲ願書ニ添ヘ其地所管師團長ニ送付シ師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第八條　尋常中學卒業證書ヲ所持セサル志願者ハ本條例第六條又ハ第七條ノ手續ヲ爲シタル後試驗ヲ爲ス之カ爲メ監軍ハ試驗ヲ受クヘキ者ノ人名書ヲ師團長ニ近衛師團長ヲ

廿五年十二月勅令第百十五號參看

除ク）ニ下シ師團長近衛師團長ヲ除ク）ハ之ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ下付シ該委員ヲ各試驗場ニ派遣シテ試驗ヲ施行セシム

第九條　師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ試驗前ニ於テ身體檢查ノ時日ヲ定メ之ヲ其部下各隊及管內ノ陸軍諸官衙幷ニ地方長官ニ通達シ志願者ヲ檢查地ニ召集シ陸軍醫官ヲシテ身體檢查ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員到着ノ時ニ下付ス」

陸軍將校生徒試驗臨時委員（近衛師團長ヲ除ク）ハ試驗ノ上其書類ヲ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ニ進達シ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第十條　監軍ハ本條例第五條乃至第七條ノ書類ト第九條ノ試驗成績トニ依リ其士官候補生ヲ命シ各兵科聯（大）隊ニ配賦ス但候補生ニ採用スヘキ者ヲ裁定シ之ニ士官候補生ヲ命スルノ日直チニ退營セシメ更ニ一般候補生ト同時ニ原隊ヘ入隊セシム但時宜ニ依リ他ノ隊ニ配賦スルヲ得

トアルヘシ

第十一條　一年志願兵ニシテ前條ニ該ル者ハ士官候補生ノ命スルノ日直チニ退營セシメ更ニ一般候補生ト同時ニ原隊ヘ入隊セシム但時宜ニ依リ他ノ隊ニ配賦スルヲ得

トアルヘシ

第十二條　士官候補生ヲ各兵科聯（大）隊ニ配賦スルニハ左ノ四項ヲ顧慮スヘシ

其一　本人ノ希望

其二　軍隊ノ必要

其三　學術優等ノ者ハ各兵科聯（大）隊ニ平等ニ配賦スヘキ事

其四　砲、工兵科聯（大）隊ニ配賦スヘキ者ハ數學優等ナル事

第十三條　士官候補生ハ志願兵トシテ入隊ノ日ヨリ兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ニ依リ服役セシム

第十四條　士官候補生ハ士官學校分遣前概ネ一箇年幼年生徒出身ノ者ハ概ネ六箇月軍隊ニ在テ下士兵卒ノ勤務雜役ヲ習得スルコトヲ要ス

第十五條　士官候補生入隊ノ上ハ聯（大）隊長ハ部下聯（大）隊中ノ某中隊ヲ撰ヒ之ニ編入シ該中隊長ヲシテ訓育ヲ掌リ諸勤務ノ訓練ニ任セシム

第十六條　士官候補生軍事學ノ敎授ハ聯（大）隊長部下大尉若クハ中尉ノ內一名ヲシテ之ニ任セシム

第十七條　聯(大)隊長ハ士官候補生ノ教育上ニ就テ總テ擔保ノ責ニ任ス

第十八條　士官候補生中幼年生徒出身ノ者ハ入隊後直チニ上等兵ノ階級ニ進メ二箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ其他ノ者ハ入隊後直チニ一等卒ノ階級ニ進メ六箇月ノ後ハ上等兵ノ階級ニ八箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ一箇年ノ後ハ一等軍曹ノ階級ニ進ムルコトヲ得但各階級ニ於テ本官等下士兵卒ノ上位ニ在ルモノトス

第十九條　士官候補生ノ被服裝具等諸給與ハ本人ノ階級ニ應シ總テ下士兵卒同樣ニシテ官給トス其居室ハ一般下士兵卒ト混同スルコトナク別ニ一室ヲ與ヘ徽章ヲ附シ將校ノ公會等ニ於テハ之ニ列席セシムルコトヲ要ス

第二十條　士官候補生ハ室内其他諸物品ノ掃除及馬具、馬匹等掃拭ノ爲メニハ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬具、馬匹ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲サシムヘシ

第二十一條　士官候補生諸勤務ノ訓練ヲ終レハ之ニ任シタル中隊長ハ士官候補生諸勤務ヲ習得シタル保證書又軍事學ノ教授ニ任シタル士官ハ其教授成績ノ報告書ヲ聯(大)隊長ニ進達シ聯(大)隊長ハ之ヲ審閱シ更ニ教育ノ完全ナルコトヲ確認シ都督師團長歩兵ハ旅團長ヲ經テ師團長各兵科ノ連名簿ヲ製シ之ニ聯(大)隊長ヨリ出ス所ノ書類ヲ添ヘ監軍ニ進達ス可シ

第二十二條　監軍ハ前條ノ書類ニ依リ士官候補生ノ士官學校ニ入校セシムヘキ者ヲ定メ都督師團長ヲ經テ之ヲ命スヘシ

第二十三條　士官候補生士官學校修學ヲ終リ卒業試驗ニ及第シ歸隊セシ者ハ曹長ノ階級ニ進メ某中隊ニ在ラ士官ノ勤務ヲ習得セシム但其位置ハ曹長ノ上位トス之ヲ見習士官ト云フ

第二十四條　見習士官ノ教育ハ聯(大)隊長自ラ其責ニ任シ殊ニ諸種ノ演習等精密且實ニ實施セシメ以テ其學力ヲ實際ニ應用進歩セシムルコトヲ務ムヘシ

第二十五條　見習士官ノ刀刀緒、刀帶、背嚢、脚袢等ハ士官ト同一ノモノヲ給ス

第二十六條　見習士官ヲ將校ニ選擧スルニハ聯(大)隊長先ツ中隊長ヨリ本人ノ敎育完全ニシテ將校タルヲ得ヘキ保證書ヲ得尙ホ聯(大)隊長モ亦自ラ是認シタル後始メテ聯(大)隊ノ將校會議ニ付ス

第二十七條　將校會議ハ見習士官ヲ將校ト爲スノ可否ヲ議決スル所トス故ニ各將校ハ可否ノ皆ヲ自ラ選擧報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ但見習士官所屬ノ中隊長ニシテ保證書ヲ記載シタル者ハ選擧報告ヲ爲スノ限ニアラス

第二十八條　將校會議ニ於テ將校ノ皆皆可ナル者ハ聯(大)隊長ハ其選擧報告書ヲ一表ト爲シテ選擧報告表ヲ作リ之ニ順序ヲ定メタル連名簿ヲ添ヘ少尉ノ資格ヲ備フルコトヲ都督師團長歩兵ハ旅團長ヲ經テ陸軍大臣ニ上申ス都督師團長ハ之ヲ監軍ニ進達シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

若シ可若多數ナルモ幾多ノ否若アルモノハ其理由ヲ選擧報告表ニ記入シテ上申スルコト前項ニ同シ

之ニ反シ否若多數ナル者ハ選擧報告表ヲ添ヘ否決ノ理由ヲ上申ス但其手續ハ本條

例第三十二條ニ例ル

第二十九條　士官候補生諸勤務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サル者又ハ士官學校條例第二十一條其一其五ニ據リ退校歸隊セシ者ニシテ尙ホ望ミアル者ハ一回限リ次ノ入校期マテ所屬隊ニ止マラシムルコトヲ得但聯(大)隊長ハ其事由ヲ悉シ都督師團長歩兵ハ旅團長ヲ經テ師團長ハ狀ヲ具シ監軍ニ申報ス監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第三十條　前條ニ該ル者ノ士官學校入校手續ハ本條例第二十一條及第二十二條ニ依ル

第三十一條　士官候補生ハ情願ヲ以テ之ヲ免セサルモノトス

第三十二條　士官候補生ニシテ左ニ揭クル事項ノ一ニ該ル者アル時ハ聯(大)隊長其事由ヲ悉シテ都督師團長歩兵ハ旅團長ヲ經テ師團長ニ上申シ都督師團長ハ狀ヲ具シ監軍ニ進達シ監軍之ヲ裁定シ其處分ヲ爲ス

其一　品行不正若クハ軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其二　學力乏シクシテ將校生徒ニ適セサル者
其三　將校タルノ才能ニ乏シキ者
其四　上官ヨリ認メラレテ士官候補生タルヲ得ヘカラサル者
其五　諸勤務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サルモノニシテ後來望ミナキ者及疾病若クハ傷痍ニ因リ一時服役ニ堪ヘサル者
其六　士官學校條例第二十一條其一其五ニ依リ退校歸隊シテ後來望ミナキ者
其七　士官學校條例第二十一條其二其三其四ニ依リ退校歸隊セシ者
其八　卒業試驗ヲ受クルヲ得スシテ歸隊セシ者
其九　卒業試驗ニ落第シテ歸隊セシ者
其十　本條例第二十三條ノモノニシテ本條其一乃至其四ニ該ル者
其十一　本條例第二十六條ノ第三項ニ該ル者
其十二　疾病若クハ傷痍ニ因リ常備後備ノ服役ニ堪ヘサル者及永久服役ニ堪ヘサル者

第二十三條　前條其一乃至其十一ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免シ其階級ニ應シ本官ニ任シ又ハ兵卒ト爲シ豫備役ニ編入シ其十二ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免ス

附　則

第二十四條　下士兵卒一年志願兵ニ及教導團生徒ハ當分士官候補生ヲ志願スルコトヲ得但其志願手續ハ本條例中一年志願兵ノ例ニ依ル

第二十五條　屯田歩兵科ノ士官ハ當分札幌農學校兵科ヲ卒業シタル者ニシテ見習士官ヲ命シ六箇月以上隊務ニ服シタル者ヲ以テ補充スルコトヲ得

見習士官ノ取扱幷士官ノ任用ノ手續等ハ第二十三條乃至第二十八條及第三十二條ノ例ニ準ス但第二十八條及第三十二條ノ書類ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ其第三十二條ニ該ル者ハ陸軍大臣ニ於テ見習士官ヲ免ス

●勅令第二百十二號　（明治二十九年五月十五日）

陸軍中央幼年學校條例

第一條　陸軍中央幼年學校ハ生徒ニ概ヲ尋常中學校第四年第五年ノ學科ト同一ナル教授竝軍人ノ緣備教育ヲ爲シ陸軍各兵科現役士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　生徒ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　本校ニ生徒隊三中隊ヲ置ク

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	大中佐
副官	大中尉
教授	
馬術教官	大中尉
生徒隊中隊長	大尉
生徒隊中隊附	中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、陸軍屬及陸軍助教

第五條　校長ハ監軍ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　教授ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第八條　馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條　生徒隊中隊長ハ生徒ノ軍人精神ヲ涵養シ且軍隊內務、服裝、行狀ヲ監視シ生徒訓育ノ責ニ任ス

第十條　生徒隊中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ訓育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十一條　生徒修學期ハ概ネ二箇年トシテ之ヲ二學年ニ分ツ

第十二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ校長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得ヲ之ヲ定ム

第十三條　生徒ハ被服糧食等ノ費用トシテ若干ノ納金ヲナスモノトス其金額ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十四條　生徒中地方幼年學校特待生タリシ者又ハ之ニ準スヘキ者ハ納金ヲ免除スルコトヲ得

生徒中地方幼年學校ニ於テ納金ヲ半減シタル者又ハ之ニ準スヘキ者ハ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得

第十五條　生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十六條　第二年生徒中學術優等ニシテ品行方正ナル者若干ヲ選拔シテ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得

第十七條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四　長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五　卒業試驗ニ落第セシ者

第十八條　生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ト雖モ尚望ミアル者ハ一箇年延期修學セシムルコトヲ得但シ延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十九條　生徒中全學期ヲ終ルモ傷痍疾病等ニテ士官候補生トナスヲ得サル者ニハ單ニ教育課程卒業ノ證書ヲ附與シテ退校セシム

第二十條　前三條ニ該ル者アルトキハ校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十一條　校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官教授及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナルモノハ士官候補生ヲ

命スルト同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムルコトヲ得

第二十二條　每年生徒ニ凡五週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十三條　中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

附則

第二十四條　當分ノ內地方幼年學校卒業者本校定員ニ滿タサル時ハ華士族平民中本校生徒志願ノ者ヨリ試驗ノ成績ニ依リ採用補缺スルコトヲ得

第二十五條　本條例第一條第二條第十一條第十三條第十四條第十六條及第二十四條ハ明治三十三年九月一日ヨリ實施ス

第二十六條　明治三十二年以前召募ノ中央幼年學校生徒ハ其卒業ニ至ル迄左ノ各條ニ據リ取扱フ而シテ之レカ召募ニ就テハ明治二十二年勅令第九十號陸軍幼年學校生徒召募條例ヲ適用ス

第二十七條　生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服糧食一切ノ經費ヲ納メシムル其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十八條　戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第二十九條　前條ノ外官費生徒、半官費生徒、自費生徒ノ區分ハ監軍之ヲ裁定ス

第三十條　生徒修學期ハ概ネ三箇年トシ其一年期ハ每年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第三十一條　第三年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナル者若干員ヲ選拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシムル

●勅令第二百十三號　（明治二十九年五月十五日）

陸軍地方幼年學校條例

第一條　陸軍地方幼年學校ハ生徒ニ概ネ尋常中學校第一年乃至第三年ノ學科ト同一ナル教授ヲ爲シ兼ネテ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養

成スル所トス

第二條　生徒ハ華士族平民中陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條　陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京　仙臺　名古屋　大阪　廣島　熊本

但東京陸軍地方幼年學校ハ陸軍中央幼年學校ノ附屬トス

第四條　陸軍地方幼年學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　少佐大尉

副官　中尉

生徒監　大中尉

教授

軍醫

下士、陸軍屬及陸軍助教

校長以下將校同相當官及下士兵卒ハ豫備後備ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取

扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第五條　校長ハ監軍ニ隷シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　教授ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第八條　生徒監ハ生徒ノ軍人精神ヲ涵養薫陶シ日常其躬行起居動作ヲ監視シ生徒訓育ノ事ニ就テハ專ラ其責ニ任ス

第九條　生徒修學期ハ概ネ三ケ年トシ之ヲ二學年ニ分ツ

第十條　生徒教育課程ハ校長案ヲ具シ監軍之ヲ定ム

第十一條　生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシメ被服糧食等ノ費用トシテ若干ノ納金ヲナス

モノトス其金額ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十二條　生徒中戰死者及將校同相當官ノ孤兒ニ對シテハ特ニ前條ノ納金ヲ免除スルコトヲ得

生徒中陸海軍士官ノ孤兒ニ對シテハ前條ノ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得

第十三條　第三年生徒中學科優等ニシテ品行方正ナル者若干ヲ選拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得

第十四條　生徒中止ヲ得サル事故ニ依リ退校ヲ願出ツル者アル時ハ其事情ニ依リ退校ヲ許スコトアルヘシ

第十五條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　屢法則ヲ犯シ又品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其三　長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其四　卒業試驗ニ落第セシ者

第十六條　生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者ト雖モ尚望ミアル者ハ一箇年延期修學セシムルコトヲ得但延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十七條　生徒中全學期ヲ終ルモ中央幼年學校ニ入校セシメ得サル者ハ單ニ教育課程卒業ノ證書ヲ附與シテ退校セシム

第十八條　前四條ニ該ル者アルトキハ校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ其認可ヲ得テ之ヲ處分ス

第十九條　校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗及身體檢查ヲ施行シ各敎授及生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調查シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ身體檢查表ヲ添ヘテ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ敎育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十條　監軍ハ前條卒業者ニ就キ中央幼年學校ヘ入學セシムヘキ者ヲ定メテ地方幼年學校長ニ達ス

第二十一條　每年生徒ニ凡五週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

附　則

第二十二條　本條例ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●勅令第九十號　（明治二十二年七月四日）

陸軍幼年學校生徒召募條例

廿五年十二月勅令第百十六號參看

廿七年二月勅令第九號參看

第一條　陸軍幼年學校生徒ハ陸軍出身志願ノ者ニシテ年齢十五年以上十八年以下ノ者ヲ召募シ身體檢查及入學試驗ノ成績ニ依リ必要ノ人員ヲ採用スルモノトス

第二條　每年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條　生徒召募ノ試驗格例ハ每年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條　生徒タラントコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ本籍ノ地方長官寄留ノ地ノ地方長官ニ差出シ地方長官ハ各志願者ノ身分、財產、敎育、性質、品行等詳細之ヲ取調ヘ其證明書ヲ作リ之ヲ願書ニ添ヘ其地所管師團長ニ送付ス可シ師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第五條　志願者ハ前條ノ手續ヲ爲シタル後試驗ヲ爲ス之カ爲メ監軍ハ志願者ノ人名書ヲ師團長近衛師團長ヲ除ク　ニ下シ師團長近衛師團長ヲ除ク　ハ之ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ下付シ該委員ヲ各試驗場ニ派遣シテ試驗ヲ施行セシム

第六條　師團長近衛師團長ヲ除ク　ハ試驗前ニ於テ身體檢查ノ時日ヲ定メ之ヲ地方長官ニ通達シ志願者ヲ檢查地ニ召集シ陸軍醫官ヲシテ身體檢查ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員到着ノ時ニ下付ス

陸軍將校生徒試驗ノ上其書類ヲ師團長近衛師團長ヲ除ク　ニ進達シ師團長近衛師團長ヲ除ク　ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第七條　監軍ハ本條例第四條ノ書類ト第六條試驗成績トニ依リ之ヲ裁定シ入校ヲ命ス

●勅令第百四十一號　（明治二十八年十月四日）

陸軍六週間現役兵條例

第一條　徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシム（キモノハ敎職ニ就キタル年若クハ其翌年ニ於テ其居住地師管內ノ步兵隊警備隊ヲ置ク島嶼ニアツテハ警備隊ニ編入シ服役セシム）

第二條　六週間現役兵ノ入營期日ハ每年六月一日トス但疾病其ノ他ノ事故ニ依リ期日ヨリ三日以內ニ入營シ難キモノハ翌年徵集ス

戰時若クハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第三條　現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條　六週間現役兵ノ敎育ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ倣フ其責ニ任ス

第五條　六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アルモノニハ聯隊長其成蹟ヲ具シ順序ヲ經テ師隊長第七師管ニ在テハ電田兵司令官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第六條　六週間現役兵ノ身體檢査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵檢査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサルモノハ徵兵檢査規則ニ照シ處分ス

第七條　檢査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

北海道及沖繩縣ニアル者ノ身體檢査ニ關スル規定ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム

附　則

第八條　北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置クマテハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條　本令ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十二年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍省令第十八號　（明治二十八年十月十一日）

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條　六週間現役兵ノ身體檢查ハ敎職ニ就キタル年居住地最寄ノ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後敎職トナリタルモノハ翌年回ス

第二條　府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一樣式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作リ身體檢查ニ先タチ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ檢查ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ敎職モ亦本文同樣該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條　聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體檢查ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第二樣式ノ合格証書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團

長ニ差出シ且其ノ成績ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲スヘシ

第四條

第五條　師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第六條　北海道及沖繩縣ニ在ルモノヽ身體檢查ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ

一　北海道ニ在テハ札幌聯隊區司令部沖繩縣ニ在テハ沖繩分遣隊ニ於テ身體檢查ヲ行フ

二　北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ敎職トナルヘキ年豫メ第二條ニ準シ名簿ヲ作リ札幌聯隊區司令部又ハ沖繩分遣隊ニ送付スヘシ

三　札幌聯隊區司令官及沖繩分遣隊長ハ三月一日迄ニ醫官ヲシテ身體檢查ヲ爲サシメ其名簿ヲ札幌聯隊區司令官ヨリハ師團長沖繩分遣隊長ヨリハ鹿兒島聯隊區司令官ニ送付シ鹿兒島聯隊區司令官ハ第三條ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第七條　身體檢查ノ後敎職ヲ罷メタルモノアルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令

部ニ通報スヘシ但北海道及沖繩縣ニ在テハ檢查後入營期日迄ニ敎職ヲ命セサルモノアルトキ亦同シ

第八條　身體檢查ヲ受ケタルモノ沖繩縣在籍者ヲ除ク

ハ其受ケシ處分ヲ本籍所管ノ島司郡市區長ニ屆出ヘシ

本條ノ屆出ヲ爲サヽルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條　條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタルモノアルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ其隊長警備隊ニ在テハ該司令官ヨリ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報シ大隊區司令官警備隊區司令官ハ其名簿ヲ調製シ且道廳府廳ニ通報スヘシ

國民軍幹部適任證書ハ附錄第二樣式ニ準シ調製スヘシ

第十條　國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其證書ヲ返還セシム

第十一條　前諸條ニ揭クルモノヽ外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定ム

ヘシ

條例第九條ニ依リ第二師管ノ歩兵隊ニ編入スヘキ者ノ取扱ハ第七師團長ヨリ第二師團長ニ協議シ之ヲ定メ陸軍大臣ニ報告シ道廳長官ニ通知スヘシ

附則

明治二十九年ニ於テ徴募スル六週間現役兵ノ身體撿査ハ居住地最寄ノ徴兵署ニ限ラス聯隊區内便宜ノ徴兵署ニ於テ施行スルコトヲ得

第一號樣式

用紙厚紙

表

陸軍六週間現役兵合格證書

府(縣)郡(市)町(村)

某「長(次)男」兄(弟)本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ

氏名

凡曲尺四寸

右撿査合格ニ付此證書ヲ付與ス

年　月　日

職(爵)　氏　名　㊞

凡曲尺六寸

裏

心得

一此證書ヲ所持スルモノヽ入營期日ハ六月一日トス

但疾病其他ノ事故ニ依リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キモノハ翌年徴集セラルヽモノトス

二戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徴集ハ延ハスコトアルヘシ

第二樣式　（用紙烏ノ子紙）　七寸八分

五寸六分

第　號

國民軍幹部適任證書

府縣族籍

陸軍六週間現役兵　氏　名

右國民軍幹部適任ノ者ト確認ス

年　月　日

（此欄以外ノ摸樣ハ略ス）

職官位勳　氏　名　印

●勅令第百九十一號　（明治二十九年五月八日）

陸軍一年志願兵條例

第一條　徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ居住地師管內ニ於テ服役スヘキ兵科及衛戍地ヲ選フコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第二條　一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六拾貳圓糧食費トシテ金參拾八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ金七拾五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ

之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條　一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長（聯隊ヲ成ササル隊ニ在ラハ該隊長以下同シ）外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條　費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條　一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢查往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條　官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

官費服役出願者前條ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ回シ入隊セシム

第七條　一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第八條　一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長（東京京都大阪ノ三市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ）ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラサルモノハ戸主二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス

島司郡市長ハ志願者ノ身元資產並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條　前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添（師團長ニ屆出ヘシ

第十條　師團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ人名書二通ヲ製シ其一通ヲ監軍ニ呈シ一通ヲ身體檢查ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條　一年志願兵ノ學術試驗格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條　師團長ハ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢查時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ檢查地ニ召集ス

第十三條　師團長ハ軍醫ヲシテ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢查ヲ爲サシメ其合格

者ハ陸軍將校生徒試驗臨時委員ヲシテ學術試驗ヲ行ハシム

第十四條　師團長ハ試驗ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常徵兵ト同時ニ身體檢查ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ屆出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條　一年志願兵入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條　一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條　一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條　一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試驗委員ヲシテ終末試驗ヲ爲サシメ其成蹟ヲ具シ師團長（步兵ニ在テハ旅團長ヲ經テ）ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試驗及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條　前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ月ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成蹟優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セスシテ豫備役ニ編入ス

第二十條　第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官トナスノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條　醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊（理

叺學、商業學卒業證書ヲ所持スルモノハ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ限ル）ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生トナリ各專門ノ勤務ニ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添ヘ出願スヘシ

前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條　前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル將ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生トタラントスル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタル時ヨリ更ニ三箇月ノ後三等書記ノ階級ニ進ムヘシ

第二十三條　軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第二十四條　軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ豐長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條　軍醫生、藥劑生、獸醫生、及軍吏生トタラントスル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試驗委員ヲシテ終末試驗ヲ爲サシメ其及第者ニハ（軍醫部長、獸醫部長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ）終末試驗及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

其落第者ニ在テハ軍醫生ハ看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫生ハ蹄鐵工下長適任證書、軍吏生ハ軍吏部下士適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

二等書記ノ任官及各適任證書ノ付與ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受ケルモノトス

第二十六條　師團長及師團監督部長ハ每年一年志願兵終末試驗格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條　終末試驗委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試驗委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條　第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシム

第二十九條　一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノヽ外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長ト軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹ト同一トス軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第三十條　戰時若ハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第三十一條　一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ師團長ニ屆出ヘシ

第三十二條　一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入營延期ヲ師團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條　一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ屆出ヘシ

第三十四條　一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條　一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

一傷痍若クハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條　前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ

願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長（町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者）ノ奥書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作リ願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ

第三十七條　第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス

第三十八條　明治廿七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一年四箇月トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令施行以前旅團長ニ差出シタル一年志願兵ノ願書ハ之ヲ師團長ニ引繼クヘシ

欠

MISSING

テハ該隊長以下同シ）ニ下付スヘシ

第十二條　聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ師團長ニ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尚本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

第十三條　條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長之ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尚本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十四條　一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七樣式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作リ翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條　條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫部長若クハ獸醫部長

ニ送付シ監督部長、軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條　軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ徒步刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條　師團長ハ一年志願兵終末試驗終リタルトキ附錄第八樣式ニ依リ成蹟表ヲ作リ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十八條　一年志願兵終末試驗及第證書ハ附錄第九樣式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第十九條　一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協議スルヲ要ス

第二十條　一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第一樣式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年　月　日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
華(士)族(平民)
氏　名　印
年月日生

何師團長(閣)氏名　殿

條例第九條ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戶主ニアラサル者及二十歲未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「戶主(後見人)ノ承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試驗ヲ受クヘキ者ハ「御認可」以下ヲ「學術御試驗ノ上御認可相成度(戶主「後見人」ノ承認書相添)此段奉願候也」ニ作ル

第二樣式

一年志願兵官費服役願

私儀徴兵令第十三條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年　月　日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)
氏　名　印
年月日生

何師團長(管)氏名殿

第一樣式欄外ノ記注ハ本樣式ニモ適用ス

第二樣式

一年志願兵服役承認書

右者一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

年　月　日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
戸主(後見人)
氏　名　印
年月日生

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「全額自辨スヘキ資力無之候得共糧食費金參拾八圓ハ無相違自辨」ノ字ニ換ヲ

第四樣式

身元證明書

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ　　氏名
一何年何月罰金何圓ニ處セラル或ハ何年何月何々ノ罰ニ處セラル等
一戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等
一戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等
一何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年　月　日　　府(縣)島司(郡「市」長)　氏名印

條例第四條ニ當ル者ハ(右相違無之)云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ能ハサルコトヲ證明ス」ニ作ル

第五樣式

第　號

一年志願兵認定證書

府(縣)族籍　氏名　年月日生

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス

但何兵第何聯(大)隊ニ於テ服役スル可シ

年　月　日　　職(爵)氏名印

用紙十三行半葉罫紙

第六樣式

第　號

官費服役證書

府(縣)族籍

氏　名

年月日生

陸軍一年志願兵トシテ糧食費ノ外官費ヲ以テ服役スルコトヲ許ス

年　月　日

職(爵)氏　名　㊞

用紙十三行半葉罫紙

第七樣式

明治何年第何師管一年志願兵人員表

類別		卒業證書所持者			學術受驗者			合計
		二十歲未滿	二十歲以上二十一歲未滿	計	二十歲未滿	二十歲以上二十一歲未滿	計	
採用者	近衛何兵(何兵)第何聯(大隊)							
	自費							
	條例第四條ニ當ル者							
	計							
翌年	條例第六條第二項ニ當ル者							
	條例第卅二條第二項ニ當ル者							

廻		備考
計		
不採用者	學術試驗ニ落第シタル者	
	身體檢査ニ合格セサル者	
	條例第九條ノ卒證證書ヲ得サル者	
	學術試驗及身體檢査ニ出頭セサル者	
	願意取消シタル者	
採用者	條例第三十一條ニ當ル者	
	條例第三十四條ニ當ル者	
	入隊前條例第三十五條ニ當ル者	
計		
總計		

一 前年ニ於テ條例第六條第二項及第三十二條第二項ニ當ル者ニシテ本年入隊シタルモノハ採用者區畫中別ニ其人員ヲ朱書シ事由ヲ備考ニ掲クヘシ

二 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ト雖モ翌年廻及不採用者ノ區畫ニ掲クル者ハ採用者ノ區畫ニ記入スヘカラス

第八樣式

明治何年第何師團一年志願兵成蹟表

兵種隊號類別		終末試驗及第者					終末試驗落第者						總計			何兵第何聯(大)隊		
		卒業證書所持者	學術受驗者				下士ニ任シタル者											
		自費(條例第四條ニ當ル者)	自費	計	合計	總計	卒業證書所持者	學術受驗者	計	合計	總計		卒業證書所持者	學術受驗者	計	本科	軍醫生	藥劑生

軍吏生	計						合計	備考

●勅令第二百十六號　（明治二十九年五月十五日）

陸軍教導團條例

第一條　陸軍教導團ハ生徒ニ歩兵、騎兵、砲兵野戰工兵、輜重兵科下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　生徒ハ華士族平民中歩兵、騎兵、砲兵野戰工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條　本團ニ歩兵、騎兵、砲兵、工兵及輜重兵ノ生徒隊各一隊ヲ置ク

第四條　本團ニ左ノ職員ヲ置ク

團長	大中佐
副官	大中尉
生徒隊長	少佐
生徒隊副官	中尉
生徒隊中隊長	大尉
生徒隊附	中尉
病院長	二等軍醫正
軍醫	
藥劑官	
獸醫	
軍吏	
准士官、下士及陸軍屬	

第五條　團長ハ監軍ニ隷シ團務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ團中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條　各生徒隊長ハ其隊生徒ノ教育ヲ掌リ其成績ニ就テハ責ニ任ス而シテ騎兵、砲兵、工兵及輜重兵生徒ノ教育上各科專門ノ事ニ關シテハ當該兵監ノ區處ヲ受ク

第八條　生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第九條　生徒隊中隊長ハ其中隊生徒學術ノ教育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且軍隊內務、服裝、行狀ヲ監視ス

第十條　生徒隊附士官ハ生徒隊又ハ所屬中隊ニ在テ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十一條　生徒修學期ハ步兵科ハ概ヲ十四箇月騎兵及輜重兵科ハ概ヲ十六箇月砲兵及工兵科ハ概ヲ十八箇月トス

第十二條　生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ團長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得ヲ之ヲ定ム

第十三條　每年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第十四條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條　生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退團スルヲ許サス

第十六條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退團セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四　長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五　卒業試驗ニ落第セシ者

第十七條　團長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ及第者ニハ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第十八條　生徒中疾病事故ニ依リ卒業試驗ヲ受ケサル者又ハ卒業試驗ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間滯學セシムルコトアルヘシ

第十九條　滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ第十七條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十條　中隊長及生徒附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

●陸軍省令第二十五號　（明治二十七年十二月十一日）

陸軍教導團生徒召募規則

第一條　陸軍教導團生徒ハ年齢滿十八年以上廿五年以下ニシテ歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ下士志願者中身體檢査學科試驗ノ成績ニ依リ所要人員ヲ採用ス

其年齢ヲ算スルハ召募ニ應スヘキ年ノ四月ヲ以テス

第二條　左ニ揭クル者ハ志願者タルヲ得ス但入團願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長東京、京都、大坂ノ三市ニハ速ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ報告シ同官ハ之ヲ教導團長ニ報告スヘシ

一　陸海軍現役、豫備役、後備役ニ在ル者

二　妻アル者

三　復權ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

五　前諸項ノ外素行修マラサル者

第三條　砲兵、工兵科ハ身長五尺二寸以上歩兵、騎兵、輜重兵科ハ五尺以上ニシテ體質强壯ナルヲ要ス

第四條　學科試驗科目左ノ如シ

一　讀書　日本外史又ハ日本政記ノ類（通讀）

二　作文　記事文（漢字交リ）及通俗文

但作文ヲ以テ作字ノ巧拙ヲ試驗ス

三　數學　整數四則、分數、比例、開平、開立

試驗ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ（其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム但一科ニ落第スル者ハ假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用セス

第五條　志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歷書及戸籍寫各副本ヲ添ヘ召募ニ應スヘキ前年ノ九月三十日迄ニ町村長ノ奥書證印ヲ受ケ島司郡長ニ差出シ市ニ在テハ直ニ市長ニ差出スヘシ但父兄親族等一家ノ戸主ニシテ身元慥ナル二名ノ保證人ヲ要ス

島司郡市長ハ前項ノ願書ニ奥書證印ノ上第四書式ノ志願者連名簿及各自ノ里程調書順路ニ基キ汽車路海陸路ノ區別ヲナシ若ヲ添ヘ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ同官ハ十月三十一日迄ニ其人名及希望兵科ヲ教導團長ニ通報スヘシ

第六條　大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ身體檢查及學科試驗ノ時日ヲ定メ教導團長及島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ本人ニ通達スヘシ

第七條　志願者ノ身體檢查及學科試驗ハ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ

其身體檢查ハ司令部最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシムル之カ爲メ大隊區司令官ハ檢查日割ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ請求スルモノトス

學科試驗ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官身體檢查合格者ニ就テ之ヲ爲スヘシ

第二項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

志願者檢查場ヘノ往復旅費及滯在費ハ自辨トス

甲大隊區ノ志願者ニシテ居住地最寄ノ乙大隊區司令部ニ於テ身體檢查及學科試驗ヲ受ケンコトヲ出願スル者アルトキハ甲乙兩大隊區司令官協議ノ上之ヲ許可スルコトヲ得

第八條　學科試驗ノ問題ハ教導團長之ヲ作リ密封シテ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第九條　志願者ハ檢查時日ニ後レサル樣當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ出頭シテ指揮ヲ受クヘシ疾病其他ノ事故ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時日ヲ延ハスコトナシ

第十條　志願者試驗ヲ受ケタル後チ轉住スルトキハ速ニ舊住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團ニ届出且ツ之ト同時ニ新住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘモ届出ヘシ

又已ムヲ得サル事故ニ由リ志願取消ヲ爲シトスル者ハ大隊區司令部又ハ警備隊區

司令部ヲ經テ其願書ヲ教導團ヘ差出スヘシ

第十一條　大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ學科試驗ヲ終レハ受驗者ノ答解書ヲ取纏メ之ニ第五條ノ區別ニ從ヒ受領シタル書類ヲ添ヘ連名簿ニ各自希望ノ兵科ヲ記入シテ十二月三十一日迄ニ教導團長ニ送付スヘシ

第十二條　教導團長ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ送付スル所ノ答解書ヲ審査シ採用スヘキ者ト否トヲ決定シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官島司郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其採用者ニハ入團ヲ命スヘシ

第十三條　入團ノ達ヲ受ケタル者ニハ其居住地受驗當時ノヨリ教導團迄ノ里程ニ應シテ舟車馬料及日當ヲ當該監督部ヨリ支給ス但自己ノ便宜ヲ以テ入團期日前早著シ滯在スル者アルモ日當ヲ增給スルノ限リニアラス

第十四條　入團ヲ命セラレタル者居住地出發前疾病其他ノ事故ヲ生シ入團延期ヲ出願セントスルトキハ入團期日ヨリ何日間猶豫ノ旨疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ記載シ其願書ヲ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團長ニ差出スヘシ又入團途中ニ於テ同一ノ事故ヲ生シ期日ニ著團シ難キトキハ電報若クハ郵便ヲ以テ教導團長ニ屆出事故止ミ著團ノ節疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市町村長若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ更ニ屆出ヘシ

前項ニ依リ入團期日後十日以內ニ到著セサル者ハ除名スヘシ

第十五條　入團ノ達ヲ受ケタル者故ナク出發ヲ遲延シ若クハ無屆ニテ期日ニ到著セス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス支給セシ旅費ヲ返納セシム

第十六條　採用スヘキ者著團スルトキハ再ヒ身體檢查ヲ行フヘシ此檢查ニ於テ不合格ノ者ハ歸鄉セシメ其旨ヲ教導團ヨリ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ通報スル但自己ノ不攝生ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ之ニ歸鄉旅費ヲ給セサルノミナラス入團旅費ヲ返納セシムルモノトス

第十七條　生徒入團ノ上ハ教導團條例第十五條ニ據リ左ノ誓約ヲ爲サシム

誓文

今般陸軍出身志願ニ付教導團生徒奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓ヲ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令疾病ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラスシテ免役ヲ請願致候等ノ儀毛頭仕間敷候依テ誓文如件

年　號　月　日

姓　名　印

附　則

第十八條　市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十九條　沖繩縣下ノ志願者ニ關シ大隊區司令官ノ取扱ニ係ルモノハ當分ノ內沖繩分遣歩兵隊長之ヲ取扱フヘシ

第二十條　明治二十八年召募ノ者ニ限リ第五條ノ願書差出期限ヲ一月十五日第十一條ノ書類送付期限ヲ二月十五日迄トシ第五條ノ人名通報期限ハ適宜トス但第五條ノ願書其他ノ書類ハ島司郡市長ヨリ一月二十五日迄ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第一號書式　用紙美濃紙

教導團入學願

某　儀

陸軍出身志願ニ付教導團生徒トシテ入學仕度候間御試驗ノ上御採用被下度入團ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可申依テ履歷書及戶籍寫相添保證人連署此段奉願候也

年　號　月　日

何國何郡(市)何町(村)第一希望何科　第四希望何々
產　戶主ニ非レハ某子弟
何國何郡(市)何町(村)第二希望何々　第五希望何々　姓　名　印
何番地住(寄留)　第三希望何々　年號月日生

身元保證人

府(縣)何族(平民)職業

明治何年四月何年何箇月

府(縣)何族(平民)
何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)　姓　名　印
同　上　　姓　名　印
同　上　　姓　名　印
同　上　　姓　名　印

陸軍教導團長官　姓　名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

府(縣)市(郡町村)長　姓　名　印

前書之通相違無之候也

府(縣)島司(郡長)　姓　名　印

第二號書式　用紙美濃紙

履歴書　書式ニ示ス外履歴ニ係ルモノハ悉ク記載スヘシ

府(縣)何族(平民)職業
戸主ニ非レハ某子弟等

一何年何月種痘(天然痘)

一陸海軍現役、豫備役、後備役ニアラス　姓　名

一妻ナシ

一家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシコトナシ
(家資分散ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ辨償ノ辨償ハ既ニ完了ス)

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
及賭博犯ノ處分ヲ受ケシコトナシ

一何年月日任何官(免本官)何省(府)(縣)

一何年月日何職被申付(何職被免)(廳)等何省(府)(縣)

一何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何學修學)

一何年月日迄何學研究(商業)ノ爲メ何國(外國ヲ云フ)ニ在留

一何年月日徴兵(士官候補生、幼年學校生徒、教導團生徒、海軍兵學校生徒等)ノ檢査ヲ受ケ體格身幹胸圍體重不足等學科ニ合格セス

一何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜

一何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

年　號　月　日

本人　姓　名　印

第三號書式　用紙美濃紙

戸籍寫　戸籍中現在スル者ノミヲ記載スヘシ

一　祖父　某
一　祖母　某
一　父　某
一　母　某
一　兄　某　何年何月日生
一　弟　某　同右
一　姉　某　同右
一　妹　某　同右

右之通相違無之候也

年　月　日

本人　姓　名　印

身元保證人　姓　名　印

身元保證人　姓　名　印

第四號書式　用紙半紙

陸軍教導團生徒志願者連名簿　何縣何郡（市）

摘要	府縣族籍職業	年齡	姓名
	何年四月調		

●陸達第二十三號　（明治二十五年三月二十六日）

陸軍志願兵身體檢查規則

第一條　陸軍志願兵徵兵事務條例施行細則第八條ニ當ル者ハ除ク　身體檢查ハ其身材ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス而シテ此檢查ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體檢查ニ適用ス

第二條　志願者一日ノ檢查人員ハ醫官一名ニ付概ヲ四十名トス

第三條　志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

滿十五歲以上	四尺七寸以上
滿十六歲以上	四尺八寸以上
滿十七歲以上	四尺九寸以上
滿十八歲以上	五尺以上

第四條　體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一　合格徵兵檢查規則第三條ノ甲種乙種ニ該當スルモノ　身長ノ制限ハ本則第三條ニ據ル

二　不合格前項ニ該當セサルモノ

第五條　近視ノモノハ合格トナスコトヲ得ス但各兵科士官候補生志願者ニ在テハ二十尺ノ距離ニ於テ眼鏡ヲ用ヒス斯涅兒連氏視力表ノ三十號ヲ視得ルモノ一年志願兵志願者ニ在テハ同百號ヲ視得ルモノヲ採ルコトヲ得衛生部士官候補生志願者ニ在テハ尙高度ノモノヲ採ルモ妨ナシ

第六條　一年志願兵志願者ニ限リ第四條ノ不合格中二十歲未滿徵兵檢查規則第三條ノ丙種若クハ丁種若クハ戊種ニ當ルヘキモノナルコトヲ區別スヘシ

第七條　醫官ハ檢查結了後一週間日以內ニ體格表(第一式)ヲ調製シテ所管軍醫長ニ報告シ軍醫長ハ之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第八條　士官候補生並諸生徒志願者ノ體格檢查表(第二式)ハ檢查結了後士官候補生及幼年學校生徒志願者ノ檢查表ハ師團司令部、教導團生徒志願者ノ檢查表ハ大隊區司令部ヲ經送附スヘシ

（表式ハ畧ス）

●陸軍省令第二十一號　（明治二十三年七月八日）

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及ヒ出願手續

一　陸軍下士兵卒ノ父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸鄉ヲ要スルトキハ往復ヲ除キ二週日以內ノ休暇ヲ許ス其休暇ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作リ病氣ナレハ醫師ノ診斷書ヲ添フ市町村長特別市制施行地ハ區長以下同シノ奧書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ヘ宛差出スヘシ但掌務繁劇ナルトキハ許可セサルコトアル可シ

一　前項ノ外下士ニ在テハ每年二週日以內ノ休暇ヲ與ヘ歸鄉又ハ旅行ヲ許スコトアリ又營外居住ノ下士兵卒ニハ轉地療養ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依リ四週日以內ノ休暇ヲ許スコトアルヘシ

一　休暇ヲ得テ歸鄉又ハ旅行中發病ノ爲メ出發シ難キトキハ延期ヲ願フコトヲ得其延期ヲ願フトキハ本人又ハ親族ニ於テ願書ヲ作リ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ヘ宛差出スヘシ

一　休暇ヲ得テ歸鄉又ハ旅行ノ者如何ナル事故ニ遭遇スルモ前項ノ場合ヲ除ク外休暇日數ヲ延ハスコトヲ許サス

一　途中發病川留船待雪支等ニテ休暇日數ヲ超過スルトキハ醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸着ノ上差出スモノトス

一　休暇ヲ得テ歸鄉又ハ旅行スル者ハ左式ノ休暇免許證ヲ携持シ陸軍定制ノ服ヲ着ス

六寸

兵種隊號（所管）

官（兵卒職工）　姓　名

職官　姓　名　㊞

休暇免許證　㊞

表

十四

一　此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與フルノ證トス

一　休暇日數何日(往復日數何日)

一　何月何日何時何地出發何地ニ至リ何月何日何時マテ必ス何地ニ歸着スヘシ

年　月　日

裏

一　市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長又ハ戸長ニ於テ取扱ヘシ

●陸軍省令第二十二號　(明治二十八年十月三十一日)

陸軍准士官下士文官採用細則

第一條　本則ト稱スルモノハ陸軍准士官下士文官採用規則ヲ云フ以下倣之第一條ニ依リ文官奉職ヲ請願セント欲スル者ニシテ第一項ニ該當スル者ハ第一書式第二項及第三項ニ該當スル者第二書式及第三書式ニ依ルヘシ

第一書式　料紙美濃紙以下倣之

某戰役(公務上)ノ傷痍(疾病)ニ依リ過ル年月日現役ヲ退キ(免官相成)候ニ付陸軍准士官下士文官採用規則ニ依リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書陸軍出身後ノ經歷及賞罰等ヲ詳細ニ記載シ正副二通差出スヘシ以下履歷書トハ傷痍若クハ疾病ヲ證スルノ倣之並ニ診斷書診斷書トハ傷痍若クハ疾病ヲ證スル爲メ豫テ下付セラレタルモノヲ云フ及仗備證明書寫相添此段奉願候也

某　儀

道廳(府)(縣)國郡(區)町(村)族籍

退役(豫備)(後備)(元何官)

官　姓　名　印

年號月日生

年　月　日

陸軍大臣爵姓名殿（豫備後備役ノ者ニ在テハ宛名ヲ所管長官トナシ左ノ奥印ヲ要セス）

年號月何年何箇月

前書ノ趣調査候處相違無之候也

道廳（府）（縣）郡（區）（市）町（村）長

某　儀

年　月　日

姓　名　印

第二書式

來ル（過ル）年月日退職（現役滿期）相成候ニ付陸軍准士官下士文官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證明書寫相添此段奉願候也

隊號（所管）（豫備）（後備）

某　儀

年　月　日

官　姓　名　印

年號月日生

年號月何年何箇月

（所管長官）

職官姓名殿

第三書式

過ル年月日退役（現役滿期免官）相成候ニ付陸軍准士官下士文官採用規則ニ據リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證明書相添此段奉願候也

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）族籍

退役（元何官）

某　儀

官　姓　名　印

年號月日生

年　月　日

年號月何年何箇月

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳(府)(縣)郡(區)(市)町(村)長

年　月　日　　姓　名　印

第二條　願書及履歷書ハ楷書又ハ行書ヲ以テ自ラ之ヲ書スヘシ

第三條　本則第五條ニ因リ教官技術官タラントスルコトヲ望ム者及某官廳ニ限リ奉職センコトヲ望ムモノハ其志願ノ廳名ヲ願書中ニ記載シ又教官技術官志願ノ者ニ在テハ其習得セシ學術ヲ履歷書中ニ記載シテ差出スヘシ

但教官技術官タルノ志願ヲナシ合格セサルモノハ更ニ普通判任官タルヲ請願スルコトヲ得

第四條　本則第一條ノ資格ヲ有スト雖モ服役以來左ノ項目ニ觸ルヽ者ハ請願スルヲ得ス又既ニ請願ノモノハ其願無効ニ屬ス

一　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

一　賭博犯ニ付懲罰ニ處セラレタル者

第五條　本則第一條ニ依リ請願スル者アルトキハ所管長官又ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其請願書類ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條　本則第五條ニ因リ各官廳ニ於テ試驗ヲナセシトキハ其試驗ノ科目及合格不合格ノ旨ヲ直ニ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第七條　各官廳ニ於テ請願者ヲ採用セシ上ハ直ニ其官等ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第八條　各官廳ニ於テ請願者ヲ採用シ他日非職ヲ命シ又ハ本官ヲ免シタルトキハ其理由ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第九條　教官技術官タランコトヲ望ム者受驗ノ爲メ官廳ニ往復スル旅費ハ凡テ自辨タルヘシ

第十條　本則第十條ニ因リ其請願ヲ取消サントス欲スルトキ又ハ請願者ノ身上ニ異動ヲ生シ或ハ轉居轉籍者ノハ處刑等ニテ履歷上改正ヲ要スルコトアルトキハ其旨ヲ詳記シ最初願出ノ手續ニ因リ届出ヘシ

◎陸軍省令第五號

陸軍臨時召集旅費支出規程左之通相メ本年五月一日ヨリ施行ス

但明治廿三年二月陸軍省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治廿五年三月二十九日

陸軍大臣　子爵高島鞆之助

陸軍臨時召集旅費支出規程

第一條　陸軍臨時召集旅費ハ島司郡長北海道函館區ハ市長東京京都大坂ノ三ニ於テハ區長以下同シ　市ハ區長以下同シ　其管内在郷ノ陸軍々人補充兵及第一國民兵ノ毎年四月一日十二月一日ニ現在ス可キ其旅費ヲ計算シ臨時召集旅費概算表ヲ作リ第一期ハ二月十日ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ第二期ハ八月十五日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘ發送スヘシ」

五日第二期ハ十月十五日迄ニ當該大隊區司令部ヘ發送スヘシ

第二條　大隊區司令部及警備隊區司令部ハ前條ノ概算表ヲ師團司令部ヘ差出シ師團市長ハ前項概算表ノ外同時ニ臨時召集旅費人別簿附錄第一樣式ヲ作リ之ヲ第八條ノ直稅分署長若クハ間稅分署長ニ送付ス可シ

司令部ニ於テハ其金額ヲ調査シ之ヲ一表附錄第二樣式ニ取纏メ毎年二月二十八日及十月三十一日迄ニ陸軍省ヘ發送スヘシ

第三條　陸軍省ハ毎年二回三月十一月陸軍臨時召集旅費概算表ヲ作リ大藏省ニ送附シ又當該仕拂命令官ニ下付ス

第一期概算表ハ四月一日ヨリ十一月三十日迄第二期概算表ハ十二月一日ヨリ翌年三月三十日迄有效ノモノトス

第四條　陸軍省ハ平時ニ於テ豫メ臨時召集旅費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ調製シ置キ戰時若クハ事變ニ際シ大藏省ヲ經テ要求書ノ裁定ヲ得計算書ハ同省ノ檢視ヲ受クルモノトス

第五條　前條仕拂豫算計算書ノ檢視ヲ受ケタルトキハ即時電信其他ノ方法ヲ以テ師團司令部及當該仕拂命令官ニ令達ス

第六條　師團司令部ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ臨時召集旅費概算表ノ金額ヲ目的トシ普通ノ手續ヲ以テ現金前渡ヲ受ク可キ官吏ヘ旅費金額送付方ヲ當該仕拂命令

官ニ請求ス可シ

第七條　仕拂命令官ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行ス可シ

第八條　現金前渡ヲ受ク可キ官吏ハ島司郡長トシ又市ニ在テハ其市所在ノ直稅分署長若クハ間稅分署長トス但島廳若クハ郡役所ニ遠隔セシ町村ニシテ特ニ場所ヲ定メ支給ヲ要スルモノハ島廳書記郡書記トス

島司郡長若クハ書記及直間稅分署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏ノ責任ヲ以テ其管內召集ニ應スヘキ在鄉軍人竝ニ補充兵第一國民兵ニ對シ各自ニ召集地ニ到ル定則ノ旅費額ヲ支給ス可シ但補充兵及第一國民兵ノ旅費額ハ豫備後備軍人ニ同シ

第一項直稅分署長若クハ間稅分署長ハ地方長官之ヲ定メ島廳郡役所ノ外特ニ支給ノ場所ヲ設クルヲ必要ト認ムルトキハ師團長ハ地方長官ト協議ノ上之ヲ定メ地方長官ヨリ其郡市又ハ島嶼ニ告示ス可シ

臨時召集旅費支給ニ係ル事務ハ最モ迅速ヲ要ス故ニ出納官吏タル者現金前渡ノ命令ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ分タス之ヲ處辨ス可シ

第九條　島司郡長若クハ書記及直間稅分署長ハ召集總レハ會計檢查院ニ提出ス可キ仕拂計算書及證憑書類ヲ師團司令部ヲ經テ仕拂命令官ニ送付ス可シ

其仕拂殘金ハ仕拂命令官ノ返納告知書ヲ得テ金庫ニ納付ス可シ

其戻入ヲ要求スルハ師團司令部ヨリ陸軍省ニ具申スルモノトス

第十條　出納官吏タル島司郡長若クハ書記及直間稅分署長ノ官氏名ハ北海道廳府縣廳ヨリ師團司令部ニ通知シ同司令部ヨリハ當該仕拂命令官ニ通知シ又陸軍省へ報告ス可シ

第十一條　演習召集旅費ハ第六條乃至第十條ニ準據シ取扱フ可シ但島司郡長若クハ書記及直間稅分署長ヘ送附ス可キ金額ハ師團司令部ニ於テ算定シ普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官ニ請求スルモノトス

其召集ニ應シタル者歸鄉ノ旅費ハ各隊ニ於テ支給ス可シ

第十二條　本規定中師團長師團司令部ハ第七師管ニ在テハ屯田兵司令官ヘ屯田兵司

令部ニ適要ス

附錄第一樣式

明治何年何月何日調　何市陸軍臨時召集旅費人別簿

住所	召集地	召集地ニ到ル里程	旅費金	氏名

| 何 | | |

一島司郡市長ニ於テモ此樣式ニ準シ調製スル可シ

●陸軍省令第六號

陸軍召集條例中召集旅費ニ關スル件左ノ通定ム

明治廿五年三月二十九日　陸軍大臣　子爵高島鞆之助

一　條例第三十二條第五十三條第六十三條第八十四條ノ召集令狀若クハ第百二十三條ノ演習令狀ヲ領收シタル在鄉陸軍々人ハ陸軍召集旅費支出規程第八條ノ官吏ニ就キ其旅費金ヲ受領ス可シ但特ニ支給ノ場所ヲ設クル地ト雖モ疾病其他ノ事故ニ由リ期ニ後レ召集ニ應スル者ハ島廳郡役所ニ就キ其旅費ヲ受領ス可シ

一　條例第三十二條第五十三條ノ出發時限ハ召集令狀領收後廿四時以內旅費金受領四時ヲ經過シタル者ハ但一日行程ハ濱車路二百哩海路百海里陸路十二里詰ヲ以テ最下限トス旅費金受領後即時ニ

一　本令ハ明治廿五年五月一日ヨリ施行ス

●勅令第百十八號　（明治二十五年十二月廿一日）

陸軍軍人ト成ルヘキ諸生徒ニシテ平時屯營內又ハ野外ニ於テ演習中傷痍ヲ受ケ若クハ之ニ原因シテ疾病ニ罹リ將來軍人ノ服役ニ堪ヘス退學ヲ命シタルモノハ左ノ區別ニ依リ一時限リ手當金ヲ給スコトヲ得

一　軍人恩給法第九條ノ各項ニ等シキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表ノ各項ニ從ヒ陸軍卒ノ金額六箇年分ヲ給ス

二　軍人恩給法第十四條第二項ニ等シキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表第六項陸軍卒ニ相當スル一箇年ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

前項ノ傷痍疾病輕重ノ等差ハ陸軍大臣之ヲ定ム

●勅令第百九十二號　（明治二十七年十一月二十四日）

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則

第一條　陸軍軍人軍屬ニシテ戰役ニ從事シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者病院ニ於テ治療ノ後鄉里ニ復歸療養セシムルトキハ本規則ニ依リ給與ス

第二條　歸鄉療養中手當トシテ軍人ニハ第一表ノ金額軍屬ニハ本俸三分ノ二ヲ給ス

第三條　歸鄉ノ際歸鄉療養ノ者ニ三回限リ病衣一具ヲ給ス

傷痍ノ狀況ニ依リ簡易ノ補欠器械若クハ副木等ヲ要スルモノハ一回限リ之ヲ給スルコトヲ得

第四條　歸鄉旅費ハ當該病院所在地ヨリ本籍地若クハ寄留地迄順路ニ應シ出發ノ際精算拂トシ第二表ノ金額ヲ給ス但途中川留、雪支、船待其他避クヘカラサル事故ノ爲メ滯在シ其ノ事由確實ナルモノハ日數ニ應シ同表ノ日當ヲ追給ス

傷痍策定ノ爲メ召喚ヲ要スルトキモ亦前項ニ準シテ往復ノ旅費ヲ給ス

第五條　歸鄉療養中傷痍、疾病再發シ地方醫師若クハ地方病院ニ就キ治療ヲ受ケタルニ依リ實費ヲ官給スルコトアルヘシ

第六條　俸給其他從來受クル所ノ諸給與ハ歸鄉療養中其支給ヲ停止ス

第一表

官名	月額	官名	月額
大將	二百十三圓	少將當	百四十九圓
中將	百七十圓	大佐當	百六圓
少將當	百四十九圓	中佐當	八十五圓
大佐當	百六圓	少佐當	六十四圓
中佐當	八十五圓	大尉當	四十三圓
少佐當	六十四圓	中尉當	三十二圓
大尉當	四十三圓	少尉當	二十六圓
中尉當	三十二圓	准士官ノ階級ニアラスシテ士官ノ勤務ニ服スル者	十五圓
少尉當	二十六圓	曹長當	九圓五十錢
准士官	二十一圓	一等軍曹當	八圓五十錢
准士官ノ階級ニアラスシテ士官ノ勤務ニ服スル者	十五圓	二等軍曹當	七圓五十錢
曹長當	九圓五十錢	諸職工生徒	五圓七十錢
一等軍曹當	八圓五十錢		
二等軍曹當	七圓五十錢		
諸職工生徒	五圓七十錢		

第二表

區別 / 名稱	旅費				
	鐵道車料一哩毎ニ	船舶料一海里毎ニ	車馬料一里毎ニ	日當一日毎ニ	
大將	高等官親任	八	十錢	二十八錢	四圓
將官相當官	同一等	七	八錢	二十錢	二圓五十錢
上長官	同二等	六	六錢	十五錢	一圓六十錢
士官	同三等以下五等以上	六	六錢	十五錢	一圓三十錢
准士官	試補	四	五錢	十錢	七十錢
下士	判任官	四	五錢	七錢	五十錢
諸職工生徒	卒	三	三錢	五錢	三十錢

士官ノ階級ニアラスシテ士官ノ勤務ニ服スル者又在職中准士官タル曹長ハ准士官ノ額ヲ給ス雇員ニシテ月給六十圓以上ハ准士官ニ十二圓以上ハ下士ニ十二圓未滿及傭人ハ諸卒ニ準ス

下士以下及判任官ニ在ラサル歩行シ難キ者ノ車馬料ハ一里毎ニ金二錢ヲ增給ス

●陸軍省令第廿三號（明治二十七年十二月一日）

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與細則

第一條　本規則第二條ノ手當金ハ傷痍、疾病者現時所屬ノ師團若クハ其留守師團司令部所在地ノ監督部ニ於テ毎月之ヲ支給ス但師團ニ屬セサル者ハ總テ臨時陸軍中央金櫃部ニ於テ支給ス

第二條　手當金ハ歸鄉療養ノ命セラレタル翌日ヨリ退職、免官、免役、現役免除、常備、後備役免除ヲ包含ス以下同シ若クハ復職復隊ヲ命セラレタル日マテ支給ス但死亡スルトキハ其當日マテ支給ス

日割計算ノ法ハ月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘

位ニ止メテ支給額ヲ得ルモノトス

第三條　本規則第三條ノ病衣、補缺器械又ハ副木類ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給ス

第四條　本規則第四條ノ旅費ハ行程三里以上ニアラサレハ之ヲ給セス但三里未滿ト雖モ歩行シ難キモノハ車馬料ヲ給ス

旅費計算ノ法ハ陸軍給與令第六十六條及同細則第九章第一條乃至第三條ニ依ル

途中ニ於テ川留、雪支、船待其他避クヘカラサル事故ノ爲メ滯在シタルトキハ其滯在地ノ郡區長若クハ市町村長ノ事實ヲ證明セル書面ヲ得テ日當ヲ請求スルモノトス

第五條　歸鄉旅費ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給シ召喚旅費ハ召喚ヲ命シタル廳ニ於テ支給ス

第六條　本規則第五條ノ治療費ヲ請求セントスル者ハ地方醫師若クハ地方病院ノ證明書第二號書式ニ請求書第三號書式ヲ添ヘ歸鄉ヲ命セラレタル病院ヘ差出スヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸鄉ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ在住地所管ノ師團司令部ヲ經テ醫務衛戍病院ヘ差出スヘシ病院ニ於テハ之ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ其治療費ヲ支給スヘシ

第七條　傷痍、疾病再發者ニシテ陸軍病院ニ於テ治療ヲ爲ストキハ其治療ヲ官給トス但入院セシムルトキハ其食料ヲ自辨セシム

第八條　傷痍、疾病全癒シ復職復隊ヲ命セラレタル者ハ其所屬部隊ニ於テ居住地ヨリ部隊所在地マテ第四條ノ例ニ依リ陸軍給與令第三十二表ノ旅費ヲ給ス

第九條　歸鄉療養ヲ命シタル病院ハ當該傷痍、疾病者ノ所屬部隊並居住地官氏名及歸鄉ヲ命シタル年月日ヲ現時所屬ノ師團監督部師團ニ屬セサル者ハ陸軍省經理局第三課並ニ現時本人ノ俸給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊ヘ通報スルモノトス

現時俸給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊ニ在テハ前項ノ通報ニ依リ歸鄉ヲ命セラレタル翌日ヨリ之カ支給ヲ止ム退職、免官、免役若クハ復職復隊ヲ命シタルトキハ其所屬部隊ヨリ直ニ之ヲ手當金支給ノ廳ニ通報スヘシ

第十條　歸鄉療養中死亡シタルトキハ其遺族若クハ親戚ヨリ郡區長若クハ市町村長ノ證明第四號ヲ得テ歸鄉ヲ命セラレタル病院ヘ届ケ出ヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸鄉ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ第六條但書ニ同シ

第十一條　甲師團ノ歸鄉療養者ノ居住地乙師團ノ所管ナルトキハ其手當金ノ支給ヲ乙師團監督部ニ請求スルコトヲ得此場合ニ在テハ本人ヨリ甲師團監督部ヘ願出テ甲師團監督部ハ其名籍ヲ乙師團監督部ニ移スモノトス

臨時陸軍中央金櫃部ヨリ手當金ノ支給ヲ受ク（キ者其居住地第一師管外トナルトキハ前項ノ例ニ準ス

第一號書式　用紙半紙

手當金請求書

一金何圓也

但歸鄉療養手當金何年何月分（何年何月何日ヨリ何日迄ノ分）

右御渡相成度候也

何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）何番地住

何師團（軍）何部（隊）附

年月日　何師團監督部（臨時陸軍中央金櫃部）

官氏名　印

御中

右生存者ニ相違無之證明候也

何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）長

年月日　氏名　印

注意

「支給廳ノ所在地外ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ郵送スルモ妨ケナシ此場合ニ在テハ金額ノ送付ヲ受ケタルトキ直ニ受領證書ヲ郵送スルモノトス」

「支給廳ノ所在地ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ持參シ金額引替ニ受領證書ヲ差出スモノトス」

「以下金額受領ノトキハ前二項ニ準ス」

第二號書式　用紙半紙

證明書

府（縣）郡（區）（市）町（村）番地
陸軍何兵何等卒　氏　名

右ハ何年何月何日何々ノ爲メ診ヲ請フニ依リ之ヲ診スルニ當時ノ症狀何々依テ何々ノ部ニ何々ノ手術（何々ノ療法）ヲ施シ爾後經過云々治療（死亡ノモノハ遂ニ何々ニ依リ何月何日死亡ト記ス）セシモノニシテ既往何々ノ傷痍（症狀ハ成ルヘク丈ケ詳記ス）再發シタルモノニシテ右治療中ニ消費シタルス入院料（診察料、藥價）ハ別紙明細書ノ如シ（別紙ハ適宜ノ體裁ヲ以テ金額内譯ヲ詳記シ署名捺印スヘシ）

前書之通證明候也

年　月　日

府（縣）郡（區）（市）町（村）番地
醫師（何病院主任）醫
氏　名　印

第三號書式　用紙半紙

請求書

何府（縣）何郡（區）（市）何町（村）何番地住
何師團（軍）何部（隊）附
官　氏　名　印

右何年何月何日歸鄉療養ヲ命セラレ候處何月何日創傷（病症）再發何月何日治療（死亡）候ニ付右加療ノ爲メ金何程ヲ費シ候間陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則第五條ニ依リ該費下付相成度別紙醫師證明書相添及請求候也

年　月　日

右
氏　名　印
（死亡者ニ在テハ遺族署名捺印スヘシ）

何陸軍豫備病院（何衛戍病院）
御中

第四號書式　用紙半紙

死亡届

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)何番地住
何師團(軍)何部(隊)附　官　氏　名

右何年何月何日歸鄉療養命セラレ候處何々ニ依リ何月何日致死去候間此段及御届候也

年　月　日

何陸軍豫備病院(何衛戍病院)
御中

右遺族(親戚)　氏　名　印

前書之通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)長
年　月　日　氏　名　印

勅令第百六十四號　（明治廿七年九月七日）

第一條　陸海軍雇員、軍艦乘組傭人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其他陸海軍傭人等ニシテ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキハ本令ニ依リ一時限リ手當金ヲ給ス

戰地ニ非ラサルモ出征事務ニ關シ公務ノ爲メ死傷シタルトキ亦前項ニ同シ

第二條　傷痍疾病手當金ハ軍人恩給法第九條ニ揭クル各事項ニ準シ別表各項ニ依リ之ヲ給ス

傷痍疾病ニシテ軍人恩給法第九條第一乃至第六ノ事項ヨリ輕キ者ニハ別表第七項ノ金額ヲ給ス

第三條　左ニ揭クル者ニハ別表ノ甲額ヲ給ス

一　雇員又ハ軍艦乘組傭人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員ニシテ其ノ職務士官ニ準スヘキ者

二　臨時兵務ニ服スル者

第四條　左ニ揭ク ル者ニハ別表ノ乙額ヲ給ス

一　雇員、軍艦乘組傭人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員ニシテ其ノ職務下士ニ準スヘキ者

二　雇員ニシテ月俸十五圓以上ヲ受クル者

第五條　左ニ揭ク ル者ニハ別表ノ丙額ヲ給ス

一　雇員、軍艦乘組傭人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員ニシテ其ノ職務卒ニ準スヘキ者

二　雇員ニシテ月俸十五圓未滿ヲ受クル者

第六條　第四條第二及第五條第二ノ月俸額ハ日給ヲ受クル雇員ニ在テハ日給ノ三十日分トス

第七條　常時傭人ニハ別表ノ丁額ヲ臨時傭人ニハ戊額ヲ給ス

第八條　軍艦乘組傭人ニハ第三條乃至第五條ノ金額ノ外仍各本額ノ四分ノ三ヲ增給ス

第九條　扶助料又ハ弔祭料ハ別表ニ依リ死者ノ遺族ニ給ス但既ニ傷痍又ハ疾病手當金ノ給與ヲ受ケタル者ノ遺族ハ此限ニアラス

第十條　軍艦乘組傭人若クハ臨時兵務ニ服スル者ヲ解放スルトキハ其勤勞ニ依リ慰勞金トシテ各給料二箇月分以內ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十一條　第一條第二項ニ該ル者ノ區域及第二條傷痍疾病ノ等差並ニ第三條第四條第五條ノ士官下士卒ニ準スヘキ職務ノ區分ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

死歿傷痍疾病手當金表

區分	死歿			傷痍疾病							
	弔祭料	遺族扶助		一項	二項	三項	四項	五項	六項	七項	
甲	三十圓	百二十圓	一項	百五十圓	百三十圓	百二十圓	百十圓	百圓	九十圓	八十圓	一項
			二項							乃至八圓	二項
乙	二十五圓	百圓	一項	百十五圓	百圓	九十圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	一項
			二項							四十圓乃至四圓	二項
丙	二十圓	八十圓	一項	九十圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十五圓	四十圓	一項
			二項							三十五圓乃至二圓五十錢	二項
丁	十五圓	六十五圓	一項	七十五圓	六十五圓	六十圓	五十圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓	一項
			二項								二項

戊	十圓	五十圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓乃至一圓五十錢

備考一　傷痍者ノ治療費ハ總テ官給トス若シ自己治療ヲ許可シタルトキハ治療費トシテ金三十圓以內ヲ支給スルコトヲ得

㊞海軍省令第七號　（明治二十七年七月二日）

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令

第一章　總則

第一條　海軍豫備役後備役下士卒臨時召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ鎭守府司令長官ヲシテ行ハシムルモノトス

第二條　臨時召集ハ時トシテ同時ニ全豫備役若クハ全後備役下士卒ヲ召集スルコトナク時ノ形勢ニ應シ所要ノ人員ノミヲ召集スルコトアルヘシ但此ノ場合ニ於テハ特ニ明治何年何月何日以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキノ令アルモノトス

第三條　臨時召集地ハ常ニ各豫備役後備役下士卒ノ兵籍ヲ管スル鎭守府海兵團トス

第四條　臨時召集ニハ召集令狀ヲ發スルモノトス

第五條　臨時召集ノ發令アリタルトキハ各當事者ハ晝夜ヲ分タス其ノ事務ヲ處理スヘキモノトス

第二章　召集ニ關スル平常ノ準備

第六條　召集令狀樣式第一ハ其ノ封筒樣式第二及領收證樣式第三ト共ニ海兵團ニ於テ之ヲ調製シ豫メ之ヲ島廳郡區市役所ニ送附シ島廳郡區市役所ニ於テハ之ヲ海軍豫備役（後備役）下士（卒）名簿ニ照シ合セ其ノ異同ヲ確メ召集ノ發令アル迄之ヲ保管シ且豫備役後備役下士卒身上ニ異動アル毎ニ適當ノ訂正ヲ施スヘシ

第七條　海兵團ニ於テハ前條ノ召集令狀ノ外ニ尙ホ旅費交附時日證票樣式第四ヲ作リ召集令狀ト共ニ島廳郡區市役所ニ送附シ置クヘシ

旅費交附時日證票ハ實際ノ旅費ヲ交附シタル時日ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ島司郡長及市ノ收稅署長ハ各自ニ旅費ヲ交附スルト同時ニ該票ニ其ノ月日時ヲ記入スヘキモノトス

第八條　豫備役後備役下士卒他ノ島郡區市ニ轉籍シタルトキ及海軍省令第六號ノ許

可ヲ得タルトキハ其ノ者ノ召集令狀及旅費交附時日證票等ハ其ノ都度速ニ之ヲ轉籍若クハ應召地ノ島廳郡區市役所ニ轉送スヘシ

第九條　北海道廳及各府縣ニ於テハ召集ニ應スル豫備役後備役下士卒休泊ノ爲メニ豫メ鎭守府ニ到ル沿道便宜ノ地ニ於テ海軍軍用旅舍ヲ撰定シ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ但本條ノ旅舍ヲ選定スルハ約束ヲ以テ定ムルモノトス

第十條　豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著スルトキ之ニ被服、食器ヲ給與シ私服ヲ格納シ補充隊ヲ編制シ又ハ直ニ兵員ヲ要スル艦船隊廳等ニ勤務ヲ命スル等ノ方法ハ豫メ鎭守府ニ於テ之ヲ定メ

第十一條　臨時召集ニ關セル達文、通知書等第十三條第十四條等參看ハ各當事者ニ於テ豫メ備明ナル文案(電報案共)ヲ定メ且成ルヘク之ヲ關係ノ官廳役場等ニ通知シ置クヘシ

第十二條　島廳郡區市役所ニ於テハ管地內在籍ノ豫備役若クハ後備役下士卒ノ人員、地形等ニ應シ召集令狀ヲ配達スルニ最モ便宜且迅速ナル方法ヲ豫定シ置クヘシ

第三章　召集手續

第十三條　豫備役若クハ後備役下士卒臨時召集ノ令アリタルトキハ鎭守府司令長官ハ之ヲ其ノ部下ニ達シ且同時ニ北海道廳長官、府縣知事、憲兵司令官東京外ニ於テハ憲兵隊長以下竝同シ警視總監、大審院長、控訴院長、地方裁判所長、檢事長及檢事正ニ通知スヘシ

第十四條　北海道廳長官、府縣知事ハ前條ノ通知ニ從ヒ之ヲ島司郡區市長及警察署長ニ達シ警視總監ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達スヘシ

第十五條　憲兵司令官ハ第十三條ノ通知警察署長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ各部下ノ憲兵、警部、巡査ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ但憲兵隊ヲ置ケル府縣ニ於テハ憲兵主トシテ之ヲ擔當シ警部、巡査ハ之ヲ補助シ憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警部、巡査專ラ之ヲ擔任スヘシ

一　召集ニ應スヘキ各豫備役若クハ後備役下士卒ノ家ニ到リ遲滯ナク發足セシヤ否ヤヲ調査シ若シ故ナク猶豫スル者アルトキハ速ニ發足ヲ督促スルコト

二　船舶所有主ノ家若クハ會社等ニ到リ港內碇泊ノ船舶乘組員中ニ豫備役若クハ

後備役下士卒ノ有無ヲ質シ若シ其ノ之レ有ルヲ知ラハ其ノ船舶ニ到リ之カ發足ヲ督促スルコト

三　豫定ノ海軍軍用旅舍ニ到リ「海軍軍用旅舍」ト記シテ表出セシムルコト

四　鎮守府ニ到ル沿道ニ於ケル渡船場、停車場及波止場等ニ出張シテ旅行ノ便宜ヲ與フルコト

五　旅費支給ノ場所ニ出張シ吏員ヲ補助シテ混雜ヲ制スルコト

六　憲兵屯所、同分屯所、警察署、同分署、巡査派出所其ノ外公衆ノ注目シ易キ場所ニ警報樣式第五ヲ掲示スルコト

第十六條　島司郡長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ町村長ニ達シ且召集令狀中ニ年月日旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲ記入シ之ヲ各自ニ配達シ其ノ領收證ヲ徵スヘシ

區長及市長ハ同條ノ達ニ從ヒ召集令狀中ニ年月日ヲ記入シ且其市ノ收稅署長（府縣知事ニ於テ定メタル者）ト協議シ旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲモ記入シ區長及市長ハ此ノ時又其ノ保管セル旅費交附之ヲ各自ニ配達シ其ノ領收證ヲ徵スヘシ時日證票ヲ收稅署長ニ交附スヘシ

本條ノ召集令狀ヲ配達スルニ當テ本人其ノ家ニ在ラサルトキハ其ノ家族親族若クハ召集通報人ニ之ヲ交附シテ其ノ領收證ヲ徵スヘシ

島廳郡區市役所町村役場ニ於テモ召集發令ニ從ヒ其ノ掲示場ニ之カ警報樣式第五ヲ掲クヘシ

第十七條　召集令狀ノ領收證ハ島司郡區市長之ヲ取纏メ務ヲテ速ニ海兵團長ニ送附スヘシ

第十八條　豫備役若クハ後備役下士卒既ニ召集令狀ヲ領收セシトキハ二十四時間以內ニ發足シ旅費支給ヲ始ムル令狀ノ裏面ニ於テ指示サレタル旅費支給場所ニ到リ時日如何ニ關セス旅費及旅費交附時日證票ヲ受領シ一日行程少クトモ十二里詰沿道ニ汽車汽船ノ便アル者ハ里數ニ拘ラス之ニヲ以テ旅行シ本籍海兵團ニ參著シ召集令狀履歷表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

召集地ニ到ル之途中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滯ヲ生シタルトキハ其ノ事由ト延滯セル時日ヲ記シ疾病ナレハ醫師ノ診斷書　汽車ノ事故ナレハ驛

長若クハ會社、汽船ノ事故ナレハ船長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其ノ地ノ憲兵、警察官、島司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受ケ參著ノトキ之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ

第十九條　豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著シタルトキハ海兵團長ハ其ノ召集令狀ヲ引揚ケ履歷表ヲ點撿シ身體ヲ撿査シ終テ之ニ被服、食器ヲ給シ私服ヲ格納シ或ハ之ヲ補充隊ニ編制シ或ハ所要ノ艦船隊廳ニ勤務ヲ命スル等鎮守府司令長官ニ於テ豫メ定メタル方法ニ依リ處分スヘシ但身體撿査ニ於テ到底兵役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ其ノ兵役ヲ免シ旅費ヲ給シテ歸鄕セシムヘシ

第二十條　召集令狀配達ヲ受クルトキ豫備役若クハ後備役下士卒犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラス二十四時間以內ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル者ハ家族親族若クハ召集通報人其ノ事由ヲ詳記シ憲兵（憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警察官）ノ證認書及市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ島司郡市長ヲ經テ海兵團長ニ屆出ツヘシ其ノ召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ

本條ニ當ル下士卒ノ召集令狀ハ前項ノ屆書ヲ差出ストキ之ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十一條　豫備役若クハ後備役下士卒召集令狀ヲ受領セルトキ傷痍疾病若クハ病後ニテ二十四時間以內ニ發足シテ召集ニ應スル能ハサルトキハ其ノ屆書ニ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ屆出テ且其ノ召集令狀ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十二條　第二十條及第二十一條ノ豫備役若クハ後備役下士卒傷痍疾病快復若クハ犯罪旅行等ノ事故止ミタルトキハ速ニ島廳郡區市役所ニ到リ召集令狀ヲ受取リ且其ノ指示ニ從ヒ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ直ニ本籍海兵團ニ參著シ召集令狀履歷表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

第二十三條　召集ノ期ニ遲ルヽ者アルトキハ海兵團長ハ第十七條ノ召集令狀ノ領收證第二十條第二十一條ノ屆書第十八條第二項ノ旅行延滯事由書及旅費交附時日證票等ヲ參考トシテ其ノ事由ヲ糺問シ懲罰ニ該ル者ハ直ニ之ヲ處分シ刑法ニ該ル者